



発行 福島東高等学校同窓会
 住所 福島市浜田町12-21 (024) 531-1551
 発行人 尾形幸男 福島東高等学校同窓会事務局長
 編集 尾形幸男
 印刷 尾形幸男

プロなんだから…

福島東高等学校同窓会会長

尾形 幸男



今年二月に第七回の福島東高等学校同窓会総会が開催されました。大変お忙しい中、多数の同窓生、恩師にご出席いただき成功裡に終了することができました。まずは、関係各位に心から感謝申し上げます。今回の総会の大きな目的は今までの反省から「在校生をサポートできる同窓会」に変えて行くことというものでした。発足当初から「同窓会館設立」という目標があり、そのために積立金を増やしてき

たのですが、創立二十五周年を迎えて方向転換を図りたいと考えました。それが「在校生へのサポート」であります。つまり、いつになるかわからない「同窓会館」への積み立てよりも、後輩たちが東高校在学時代に少しでも役立つことを行うのが同窓会の新しい在り方なのではないか、という考えです。そうすることによって、後輩たちはより同窓会の存在を身近に感じ、同窓生となったときに積極的に参加してくれるのではないかと考えているのです。その内容に關しては、この会報を御覧いただきたいと存じます。

また、同窓会発足から一度も変わらなかつた役員も大幅に入れ替えを行いました。新しい風

を運んでくれるフレッシュな仲間期待您的ください。そして、今まで長きに渡って同窓会活動にご尽力いただいた方々に、心から敬意を表します。本当にありがとございました。

さて、先日、東高校時代に大変お世話になった恩師と奥様と話す機会があり、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。その中で子育ての話になり、「学習塾」の話に盛り上がったのですが、現在では中学生のほとんどが「学習塾」に通っているようです。特に東北地区では希望高校の倍率が高く、自分の気持ちではなく、「友人がいつているから行かないとだめなのか？行けば安心する」というような周りに流され、親も不安の中で、「学習塾」を必死に探しているという状況が多いと聞きました。(勿論、すべてではありませんが、奥様は「主人(恩師)は絶対に行かせなかつた。」と言いました。私もその理由には非常に興味があり、「どつしてですか？お子さんはいきたがりませんでしたか？」と聞きました。すると奥様は、「主人は、学校の先生はプロなんだ。そのプロが自分の信念の下、教材研究をして責任持って教えるんだから、授業をきちんとしていけば、塾に行く必要はない。というんですよ。」と話してくださいました。

私たちは社会でも働き盛りと言われる年代になりました。その中で、何度か苦渋を味わいな

「恩師のご息方は「学習塾」には行かず、行きたいとも言わなかつたそうです。きつと、恩師のご息は、父親に逆らうのが怖くて塾に行かなかつたわけではないでしょう。父親として、日頃からの考えを家族に伝え、それを子供たちは自分なりに判断し生きていく上での判断材料や、道しるべとしていく。親が教師の在り方を論じ、それを子供たちは信じ、自分の目標に向かって努力する。それぞれの役割の中で責任を果たしているという前提が、恩師の発言になつたのではないのでしょうか。これは、咄嗟に出る言葉ではなく、日々の思考の中から自然に言葉として発せられるのだらうと、改めて自分自身を見つめ直す言葉となりました。

お願いいたします。

最後になりますが、第二号会報作成にあたりましては、各関係各位から多大なるご協力をいただいております。大変お忙しい中執筆いただいた方々には、心より御礼申し上げます。これも、東高と同窓会の更なる発展に期待をしていただいているものと真摯に受け止め、同窓会員がひとつになり活動を盛り上げていきたいと思っております。今後とも、同窓会活動に対し、積極的に参加して下さるようお願いいたします。

からも、「どつと」ステップアップを心掛けてきました。今の仕事に日々追われる毎日之余裕という言葉も忘れがちになつてきたのかも知れませんが、しかし、今だからこそ、自分の職業にプロとしての「信念と自信」をもつと誇つてもいいのではないのでしょうか？

そして、何よりも人間として、親として、自分なりの信念の下に「責任」を果たしていきたいと想う今日この頃であります。私たちの後姿が、子供たちに、そして後輩たちに何かを伝えることができると思っていきたいものです。

顔を上げて われら開かれた道を行く

福島東高等学校長 深 澤 陽 一



同窓生の皆様にはご健勝で過ごしのことと思います。会報の創刊号に私の東高との関わりを書きましたが、私は三期生の担任でありました。久しぶりに本校に戻って、今年で三年目になります。創設期の東高で過ごした者として、同窓生に、母校の教育ともつと大きく関わってもらいたいとの思いを持っています。幸いに同窓会が活発な動きを示してくれ、この私の思いはだんだん現実のものとなってきました。尾形会長を始め、新しく選任された副会長や監事、その他の役員の方々には、本当にお世話になりました。お陰で同窓会の事務局も新しい活動を進めていくことができています。本校には同窓の職員が教諭四名、講師二名おります。それらの事務局の職員の献身的な努力もあって、活発な同窓会になってきていることをうれし

く思っています。

同窓生が本校に関わっていた一つ一つの例として、総合学習「さまざまな職業人に聞く」があります。これは、仕事に携わる方のお話を聞くことで、職業への理解を深めようとする取り組みです。この事業は昨年度から始まり、昨年は一年生に対して十二人の講師の方にお願いで学習会を行いました。講師十二人のうち四人が本校の同窓生でした。私はこの事業が、同窓生に本校との関わりを持つていただく、同窓生の経験を聞かしていただく、良い機会だと思っております。今年度は、十月二十五日(火)に、二年生を対象に実施されますが、願います。二十五人の講師のうち、十八人が同窓生だと聞いております。多くの同窓生が講師を引き受けていただいたことにお礼を申し上げます。ボランティアでお願いいたしますし、福島近郊に住んでいらっしゃる方であれば無理ですので、すべての職種を同窓生にお願いすることはできないわけですが、このような

形で同窓生の経験が、生徒の学習に役立つことを、うれしく、ありがたく思っています。

私が住んでいる校長室には、現在四本の優勝旗があります。二本は陸上競技部が県高校体育大会で、男女とも総合優勝したときのものです。男子は四年ぶり六度目、女子は初優勝です。アベック優勝は小高工業高校以来十一年ぶり、本県で二度目の快挙です。一本は、東北総合体育大会男子ソフトボールのもので、二名の選手が県代表として参加し優勝しました。一本は、秋季高校野球県北地区大会の優勝旗です。優勝は十九年ぶりのことです。

このように多くの優勝旗にも現れているとおり、本校の部活動は、非常に活発な状態にあります。部活動の活躍を支えているのは、生徒の運動部加入率の高さです。五月一日の調査では、全生徒の六五%が運動部に加入しており、一年男子の八七%、女子の六〇%が運動部です。これまで一年女子の運動部加入率は四〇%程度でありましたので、今年は例年になく運動部の生徒が多いこととなります。この運動部加入者の増加が、県高校体育大会県北地区大会において、すべての運動部が予選を突破し

県大会に出場するという、本当につれい快挙を成し遂げた原動力だと思っております。

運動部にせよ、文化部にせよ、部活動と勉強の両立を行うことはたいへんなことです。しかし、青春時代に文武両道を自分に課し、努力をすることは大切なことだと思えます。その中から自分の能力の大きさや、生活時間管理の方法や、友情の大切さを見つけることができるのだと思っております。文武両道の推進は、これまで本校が掲げてきた最大

ご注意下さい!

最近、同窓会事務局を名乗る電話が同窓生の自宅にかかってくるという苦情が学校に数多く寄せられています。同窓生の携帯電話の番号を聞くことが多いようです。事務局では一切このような電話をしておりませんので注意して下さい。なお、このような場合、「東高に確認してみます」と対応して下さい。

同窓会からの連絡は郵送(宅配)です。電話等による問い合わせなどは原則的にはしません。どうしても電話連絡が必要な場合は、東高あてに掛け直してもらっています。東高の電話番号は024-531-1551です。

のテーマであり、これからもそうであるものです。それは、皆さん同窓生一人ひとりが、本校での三年間をかけて行ってきた道なのです。本校生は、皆さん顔を上げて切り開いてきた、その懐かしい同じ道を懸命に進んでいるのです。

多事多端の折り、皆さんがこれからもご健勝でありますように祈っています。いろいろな機会に、同窓生の皆さんとお会いできることを願っています。

第七回

同窓会総会が開かれる

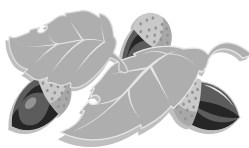
平成十七年二月二十六日(土)福島市野田町の「ウエディング・エルティ」において第七回の総会が開催されました。

総会では、役員改選がなされ、尾形会長を中心とする新執行部が発足しました。また、会計の予算・決算、規約改正、活動方針や活動計画などについて慎重な審議が行われ、事務局案が了承されました。

総会後に開かれた懇親会には、皆川郁夫先生、齋藤和也先生、上川洋行先生、岡崎政朝先生、佐藤忠知先生、片平俊夫先生、星本文先生にご臨席いただき、盛会のうちに終えることができました。

今回の総会では、創立三十周年の記念事業が重要議題として取り上げられる予定です。同窓生の数多いご参加をお待ちしております。

なお、総会には恩師の方々から数多くのメッセージが寄せられました。



同窓会活動方針ならびに活動内容

同窓会活動方針

福島県立福島東高等学校の永続的な発展に寄与する。

同窓会員の親睦・交流を図る。

在校生支援を組織的、継続的に行う。

一 同窓生名簿を整備します。

同窓会では同窓生名簿を管理しています。目的は同窓会活動を円滑に行うためです。具体的には、会報(年一回)などの諸連絡物の発送、同級会や部活動のOB・OG会への住所等の情報提供などを行います。

つきましては、次のようなことから、同窓会名簿に個人情報提供するかどうかを決定して下さい。なお、同窓会名簿を刊行する予定はありません。の場合は連絡の必要はありません。の 경우는同窓会事務局まで連絡して下さい。

会報の郵送を希望する。

(名簿への住所等を掲載し、関係する連絡はすべてします)

会報の郵送を希望しない。

他の連絡は必要。名簿へ住所等の掲載は認める。

会報の郵送は希望しない。

他の連絡も必要ない。名簿への住所等の掲載は認める。

名簿への住所等の掲載を認めない。(同窓会からの連絡はしません)

また、住所変更があった場合には、クラスの幹事に連絡すること、同窓会事務局まで連絡することをぜひお願いします。

二 同窓会名簿の情報提供を行います。

情報内容 氏名・住所(それ以外の情報は提供しません) 情報提供を希望する場合は以下の手続きを行ってください。

ア 電話による問い合わせは一切応じない。

イ 申請者(二名以上)に來校してもらう(事前に事務局と日程調整)。

ウ 事務局は二名以上で対応する。

エ 申請者(二名以上)に本人確認の質問を行う。

オ 申請者(二名以上)の本人確認を行う。

・免許証など身分確認を行うことができるものの提示

を求める。

カ 個人情報提供申請書(事務局で準備)に必要な事項を記入してもらう。

キ 申請者は印鑑が必要(拇印可)。

ク 上記の手続きを経て、目的が明確であり、問題がないと判断した場合、提供される。

ク 申請者(二名以上)名と使用目的、情報提供内容を会報で報告する。

三 会報を発行します。(年一回、毎年九月に発行、発送の予定です)

四 在校生支援を行います。「東高応援基金」と従来の積立金を財源として、部活動の在校生支援を行います。なお、「東高応援基金」への協賛者名および役員会で決定された使途については会報で報告をします。

五 その他 同窓会ではその他に、各種大会の応援広告の掲載、卒業記念品の贈呈、全国大会出場のための後援募金活動などの事業を行っています。同窓会活動の活性化には同窓生の皆さんのご協力、ご支援が必要です。ぜひとも、母校東高のためにご協力いただきますようお願いいたします。

新同窓会役員

	氏名	期生	高校時代の所属部活動	現在の職業	同窓生(在校生)へ一言
会長	尾形 幸男	1	陸上競技部	高等学校教諭 (保健体育科)	自分の選んだ道を、楽しくやり続けることができる。そんな幸せなことはありません。 君たちは、今、その道を探ることができる立場にいるのです。 すべてを「楽しく」そんな気持ちになれる人間に、なりたいものです。
副会長	橘内 重康	1	野 球 部	保原町役場	私が東高校を卒業して23年が過ぎました。時が経つのは早いものですが、今の自分があるのは高校時代に培った精神力と体力(学習能力は無い)があるからだとも今でも確信しています。社会人になってからも仕事の合間に好きな野球を今まで続けられているのはまさにこの賜物です。東高校で学ぶ在校生の皆さん。在学中は部活動に勉強に夢中でなかなか将来の自分像を描くことは出来ないと思います。しかし、「夢と目標と欲望」を常にもっていれば結果はついてきます。皆さんはやれば出来る才能を持った人たちです。決してあきらめしないで高校時代を楽しんでください。皆さんの活躍に期待します。
副会長	金子與志人	3	剣 道 部	福島日産自動車(株) 日産部品福島販売(株) 福島情報サービス 代表取締役社長	同窓会活動が更に大きな輪になりますよう、微力ながらお手伝いさせていただきます。ご協力宜しくお願いいたします。
副会長	手塚 健一	5	な し	(株)ウェディングエルティ 代表取締役社長	微力ですが、会長はじめ皆様のお役に立てる様精進いたしますので宜しくお願い申し上げます。
副会長	甚野 直美	16	バスケットボール部	福島東稜高等学校 教諭	何か一つ、自分が打ち込めるものを見つけて頑張ってください。将来、必ず自分の糧になるはずですよ。
監 事	片桐 秀樹	1	科学部 部長 当時は科学部の中に化学班・物理班・地学班がありました	(株)財テク総合保険事務所 専務取締役 ファイナンシャルプランナー	若き青春時代、心に刻まれた校訓「創造・協調・躍進」の精神が一生の宝と感じています。東高校に少しでも恩返しができればと思い監事をお引受け致しました。 母校の発展のため微力を尽くしますので今後とも宜しくお願い申し上げます。
監 事	蒲倉 達也	3	1年 スキー部 2・3年 ハンドボール部	福島リコピー販売(株) 代表取締役社長	地元福島で仕事をするようになり十年が経ちました。福島では母校の情報はさまざまなネットワークを通じて入りますが、都心で生活していると母校の情報がほとんどなく寂しい思いがありました。 この度、新役員の一員として在学中お世話になった恩返しをするつもりで、微力ながら情報発信のお役に立ちたいと考えております。 同窓会活動は、世代を超えたネットワークを得られるというメリットがあり、また学生時代に受けた恩恵を、後進に与えることにもつながります。 県下の歴史ある同窓会がたくさんありますが、我が東高も県下ナンバーワンの同窓会を目指していきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。
監 事	鈴木 勇人	9	サッカー部	(有)鈴木設計 代表取締役	僕は今でも校歌や応援歌を口ずさんでいます。そうすることで誇りと自信がよみがえります。特に凱歌がおすすめですよ。

23期生役員紹介

理 事	加藤亜津沙 (3組)・羽根田建志郎 (3組)
幹 事	笠間範子 (1組)・鈴木夏美 (1組)・宗片友紀 (2組)・山尾芙美子 (2組)・加藤亜津沙 (3組)・羽根田建志郎 (3組)・神野藤祐二 (4組)・清野和也 (4組)・鈴木有哉 (5組)・高橋政哉 (5組)・武田結貴 (6組)・森口慶紀 (6組)・齋藤真奈美 (7組)・佐藤孝洋 (7組)・小熊耕平 (8組)・高木健次 (8組)

福島県立福島東高等学校同窓会規約

[名称および事務局]
第1条 本会は福島県立福島東高等学校同窓会と称し、事務局を福島東高等学校内におく。

[目的および事業]
第2条 本会は会員相互の親睦を図り、母校の発展に寄与することを目的とする。

第3条 本会は次の事業を行う。
1. 総会の開催
2. 会員名簿・会報の発行
3. 母校の後援
4. その他本会の目的達成に必要な事項

[会 員]
第4条 本会の会員は、本校卒業生並びに本校の退職校者で総会に承認された者とする。

[役 員]
第5条 本会に次の役員をおく。
1. 会 長 1 名
2. 副会長 4 名
3. 理 事 若干名
4. 監 事 3 名
5. 幹 事 若干名
第6条 役員の出選は次のとおりとする。
1. 会長・副会長および監事は会員中より理事会において推薦し、総会で決定する。

2. 幹事は卒業年次毎に各クラスから2名を互選する。
3. 理事は幹事の中から会長が任命する。
第7条 役員の仕事は次のとおりとする。
1. 会長は本会を代表し、会務を総理する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は職務を代行する。

3. 理事は会の運営にたずさわり、会務を処理する。
4. 監事は会計を監査する。
5. 監事は他の役員を補佐し、会務運営の推進をはかる。
第8条 役員の仕事は2年とし、再任を妨げない。

[顧問]
第9条 本会に顧問をおく。顧問は会長が委嘱し、会長の諮問に応ずる。

[総 会]
第10条 総会は会長が召集し原則として年一回開く。ただし、会長が必要と認めた時は臨時総会を開くことができる。

第11条 総会では次の事項を審議し決定する。
1. 事業報告並びに決算の承認
2. 事業計画並びに予算の承認
3. 役員選出
4. 規約の改廃
5. その他重要な事項

第12条 総会の議事は出席者の過半数を持って決定する。
第13条 総会はその権限の一部を理事会または会長・副会長・監事と構成される役員会に委任することができる。

[理事会]
第14条 理事会は会長・副会長・監事・理事をもって構成する。
第15条 理事会は会長が召集し、本会運営上必要な事項を審議・決定するとともに本会の業務の執行にあたる。

[事務局]
第16条 事務局は関係表簿を備え、庶務、会計を執行する。
第17条 事務局はその業務の一部を母校職員に委嘱することができる。

[会 計]
第18条 本会の経費は入会金・終身会費・寄付金・その他の収入でまかなう。

第19条 本会は入会に際し、入会金2,000円・終身会費3,000円を納入する。
第20条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月末日までとする。
第21条 年度会計決算ならびに年度予算案は会長・副会長・監事の了承をもって総会の承認にかえることができる。

附 則 この規約は昭和58年2月28日から施行する。
この規約は平成17年2月26日から改正する。

平成16年度 収入支出決算書

収入金額 3,503,903円
支出金額 2,309,956円
差引残額 1,193,947円

平成17年度 収入支出予算書

収入金額 2,755,000円
支出金額 2,755,000円
差引残額 0円

1. 収入の部

単位：円

Table with 6 columns: 項目, 16年度予算額, 繰入額, 現計予算額, 16年度決算額, 増減, 摘要. Rows include 入会金, 会費, 前年度繰越金, 雑収入, 予備費, 合計.

2. 支出の部

Table with 6 columns: 項目(科目), 16年度予算額, 流用額, 現計予算額, 16年度決算額, 残額, 摘要. Rows include 総務費, 会議費, 旅費, 需用費, 通信費, 総会費, 運営費, 通信費, 事業費, 卒業記念品費, 広告費, 会報費, 印刷費, 封入費, 発送費, 返信通信費, 予備費, 合計.

* 項目科目間の流用を認める。

※東高事務部の指導により、総会・役員会に提出した書式・形式と変更した点があります。

1. 収入の部

▲は減少 単位：円

Table with 6 columns: 項目, 17年度予算額, 16年度予算額, 増減, 摘要. Rows include 入会金, 会費, 前年度繰越金, 雑収入, 合計.

2. 支出の部

Table with 6 columns: 項目(科目), 17年度予算額, 16年度予算額, 増減, 摘要. Rows include 総務費, 会議費, 旅費, 需用費, 通信費, 総会費, 運営費, 通信費, 事業費, 卒業記念品費, 広告費, 会報費, 印刷費, 封入費, 発送費, 返信通信費, 通信費, 予備費, 合計.

* 項目科目間の流用を認める。

同窓会積立金総額：27,025,000円

同窓会総会に寄せられた恩師の言葉

石橋光一先生

同窓生の活躍と同窓会の発展をお祈りします。

井本昌夫先生

第一期生も不惑、立派な壮年です。自重されて、社会的責任を果たして下さい。充実した会報の創刊、事務局の皆さんのご努力に敬意を表します。同窓会の誕生にかかわった一員として感無量のものがあります。

瓜生 浩先生

文武両道の精神、開校以来、受け継がれている様子がうかがわれ、以前勤務していた者として、うれしいと思うと同時に誇りに思います。今後とも福島県高校教育の指針であり続けて欲しいと思います。

遠藤教広先生

五期、六期、七期の方々しか知らない私ですが、心はいつも東高の活躍に向いています。これから益々ご発展下さい。ご盛会を心よりお祈り申し上げます。

大内寛隆先生

第一期生をはじめ、同窓の皆さんが各界にてご活躍のご様子、うれしく思います。今後ともそ

れぞれの人生を地道に歩みながら後輩をおも導き下さい。

岡崎政朝先生

各分野で活躍している卒業生のことを聞くと、幸わせを感じています。

尾形秀重先生

十七年三月をもって退職することになりました。私事で恐縮ですが、作曲した「凱歌」「信夫健児」がテレビで観ていて聞かえてくる時、大いに感動します。東高同窓会の益々の発展をご祈念申し上げます。

片平俊夫先生

型にはまらない、新しい同窓会活動を展開されたし。同窓生の更なるご活躍を祈るのみです。

上川洋行先生

「息子たちも一人前となり、力を着けてきているので、この辺で同窓会にパトントタッチするのがよい」と東高会（東高を育てる会）の金子会長さんが、創立二十周年を前に言っておられたこと思い出す。「今後の同窓会活動について」を読んで、今その時が来ていると強く実感している。同窓会のみならずの充実と発展を祈る。

亀岡達夫先生

東高の同窓生が各方面で中堅的役割を果たしつつあることは喜ばしい限りです。今後が益々期待できます。母校の発展は同窓生のバックアップが最大の原動力です。

菅野和昶先生

公用の仕事が入っております。喜多方高校で生徒とともに青春を謳歌しています。生徒の夢・希望実現のために頑張っております。会の盛会を特に祈っております。

佐々木正昭先生

全国高校サッカー選手権大会出場おめでとう。優勝目指して頑張ってください。

佐藤忠知先生

第六期生の皆さんもそれぞれの分野で活躍していると思います。母校では後輩たちが東高のモットーである文武両道で着実に躍進しています。その伝統の基礎を築いたのは諸君でした。自信と勇気をもって「今日」を生きて下さい。

島貫文弥先生

ますますのご活躍とご発展をお祈り申し上げます。

諏佐一夫先生

十五期・十八期生の担任をしました。生徒諸君のがんばりに負けないよう、必死でしたが、

私たち教員にとっても充実した日々だったような気がします。

それぞれの進路でそれぞれ楽ではないと思いますが、お互いベストを尽くしましょう。

鈴木太郎先生

東高は現在何にでも全力で取り組んで成果を出し続けている学校だと思えます。この勢いをずっと続けて絶やすことのないように頑張ってください。

高柴智子先生

ご盛会をお祈りします。

高橋忠明先生

今、明成高校です。遊びに来て下さい。

千葉金之助先生

皆さんのご活躍を期待しております。

千葉 宏先生

それぞれのお立場で活躍中のことと、遠くから思いを寄せ、応援しています。健康を最優先に社会のために貢献されるよう期待しています。

塚本利勝先生

東高同窓会の一層の充実と発展を祈念いたします。

塘伸一郎先生

会報を見させていただき、十九期生が実習でがんばっている様子に心を打たれました。遠く鹿児島から東高同窓生へメールを送り続けています。

長谷川和弘先生

当日、都合により残念ですが参加できません。OBたちの社会での活躍をうれしく思っています。同窓生、同窓会の益々の発展を祈念いたします。

畠 忠夫先生

ご盛会を祈念します。

原 馨先生

皆様の活躍を祈っています。

星 一彰先生

東高を心のふるさとにしよう！

升田邦弘先生

不意に東高の校歌が口をついて出ることがあります。初任校ということもあり、苦労もありましたが、教員としての自分の土台を作ってくれた大切な学校です。十四期生の活躍を期待しています。

三浦賢一先生

自ら世界を「創造」し、人と「協調」しあい、二十一世紀に「躍進」して下さい。東高校と卒業生の一人ひとりとは私の誇りです、力です。素晴らしい同窓会報の創刊おめでとうございませう。私の叙勲の紹介、恐縮して

います。

皆川郁生先生

成長された皆様に会う事を楽しみに致しております。自らの家庭の、地域の、県の、国の夢の・智恵の・望みの・大樹に更

なる太さを増すよ。校歌を思い出しながら会いたい！
迎 裕仁先生

東高が文武両道を実践されている姿に感動をおぼえます。同窓生の皆様もそれぞれの道に活躍の様子、力強く思っております。

村上啓正先生

同窓生皆様のご努力で東高も創立二十五周年を迎え、「文武両道」の面で益々発展していること、ご同慶の至りであります。これを機に東高、同窓会の更なる発展を祈念申し上げます。

山口光彦先生

文武両道の伝統を守り抜き、県下を代表する学校であり続けて下さい！

渡辺勝男先生

健康上の理由で出席できませんが、東高の益々の御発展をお祈り申し上げます。

渡辺裕子先生

たった三年間の勤務でしたが、先生方や生徒たちの一生懸命な姿に触れて、私の第二の母校となりました。

藁谷 齊先生

毎日、骨身を惜しまず、明日に向かって一歩ずつ前進しよう！

東高応援基金を開設し在校生支援を始める

今年度から「東高応援基金」を開設します。同窓会が部活動を継続的に支援していくことが目的です。支援内容は、各部活動からの要望をもとに、次年度の役員会で決定し、協賛者名とともに次年度の会報で報告します。同封した郵便振込用紙により、一人千円の協賛金をお願いいたします。口座は常に開設してありますので、ご協力をよろしく願います。

年間百万円の在校生支援を行うことができます。「文武両道」の伝統のもと、勉強だけでなく、部活動にも全力で取り組んでいる後輩達を、ぜひ、応援して下さい。

なお、平成十七年度から在校生支援を実施しています。今年度は同窓会会計の予備費から支出しますが、来年度以降は「東高応援基金」に寄せられた協賛金と今までの積立金によって、

在校生支援を続けていくことを役員会で決定しました。最後になりましたが、昨年、第八十三回全国高等学校サッカー選手権大会出場後援会が発足し、募金活動を行いました。同窓会も同窓生に対して募金活動を行うとともに、会計から八十万円を支出しました。大会終了後の後援会において、残金のなかから八十万円を同窓会に返金していただきました。今年の在校生支

同窓会名簿の整備について

現在、創立されてから二十六年が経過し、八千名以上の卒業生を送り出しています。しかし、残念ながら、同窓会で管理している情報の多くは、同窓生の卒業時の住所だけです。そのため、昨年度、会報を発行しても同窓生の手元に届かないことが多かったです。この意見がありました。また、千名以上の同窓生は宛先不明の状態です。

そこで、創立三十周年を前に同窓会では名簿を現状に合わせたものに整備していくことになりました。お知り合いの同窓生のお手元に会報が届いているかどうか、確認して下さい。そして、届いていない場合は、事務局まで一報下さい。また、各OB会でお持ちの情報を同窓会にご提供いただきますようお願いいたします。

名簿業者などに委託せず、地道な作業になりますが、事務局を中心に整備を進めていきますので、ご協力をお願いします。

平成17年度同窓会在校生支援への要望と支援内容

< 要望と支援内容 >

部 名	品 名	要 望 額	支 援 額
バスケットボール	バスケットボールリング	1,145,550	0
バスケットボール(女子)	ユニホーム(上) 15着×2	300,000	150,000
野 球	防球ネットの修理と購入	300,000	150,000
弓 道	弓(10張)	300,000	150,000
柔道・剣道	大型扇風機(2台)	100,000	100,000
吹奏楽	テナーサクソ	273,000	0
ソフトボール	ユニホーム代の補助	170,000	0
バドミントン	ユニホーム(学校対抗戦用)	160,000	0
バドミントン	ガット張り工具(バドミントン専用)	105,000	105,000
陸 上	ハードル5台	50,000	0
写 真	デジタルカメラ	50,000	50,000
卓 球	卓球台	150,000	120,000
ハンドボール	ゴールポスト、ネット	398,000	0
山 岳	山岳靴	25,000	0
応援(プラスバンド)	女子ユニホーム	27,000	25,000
合 唱	石油ストーブ2台	30,000	0
美 術	石膏像「ラオコーン半身像」	52,500	0
美 術	石膏像「セントジョセフ」	171,150	0
合 計		3,807,200	850,000

< 定期演奏会等 >

部 名	品 名	支 援 額
吹奏楽	第22回定期演奏会(5月)	50,000
合 唱	第3回定期演奏会(6月)	50,000
美 術	第26回桜美展(2月)	30,000
演劇同好会	自主公演会(3月)	20,000
合 計		150,000

サッカー部 特集

福島県勢初の選手権三連覇達成!!

選手権に出場して

新聞 拓也

私は、全国高校サッカー選手権大会に一年時から三年時まで、三年連続で出場することができました。この高校三年間で私は、普通では体験できないような事を経験してきました。特に、三年時に全国大会に出場できた時の喜びは、今までに味わったことのないぐらいの喜びでした。

二年時の冬、丸岡高校にPK戦で負けた時から私たちの戦いは始まりました。一、二年生時は考える間もなく県大会を勝ち抜き、先輩たちのおかげで、この全国のピッチに立たせてもらっていました。しかし、全国で負けたその日から、次は、「自分たちが」といつ思いととも、後輩に全国の舞台を体験してもらい、何かを感じ取ってもらえればという思いで、ずっとやってきました。

単に行くはずがありません。インターハイは、準決勝で敗退、プリンスリーグは、日程が厳しく、ケガ人が出て、万全な状態では戦えず、しかも、天皇杯の予選とも重なり、一つに分けて戦いましたが、結局どちらも敗退しました。あつという間に、残されたのは選手権だけとなってしまいました。

今年の予選は初めてリーグ戦が導入されました。リーグ戦は比較的危なげなく勝ちましたが、決勝トーナメントは厳しい戦いばかりでした。特に決勝戦は、一点を先制されましたが、FK二発で逆転しました。そのFKも、監督の勝先生がずっと教え込んできたことでそれが一番大事な場面でも成功し、それが何よりもうれしく思いました。こうして全国出場は決めたものの、これからが大変でした。三年生は、マネージャーもませて十七人が残り、半分以上が進路が決まっておらず、勉強との両立をさせていくのが大変でした。選手権前や選手権時の宿舎では、顧問の今野先生のもと、日本史の授業を受けたり

もしていました。先輩方はこんな大変な思いをしながら、あんなにサッカーにうちこんでいたのかと感心するばかりでした。選手権は残念ながら初戦敗退でした。この試合でかなり後悔をしていました。三年連続で全国に出ていたので、みんなこの雰囲気にも慣れていると思い、普段通りに試合に入っていました。調子がわるそうな選手が何人かいました。試合が終わって冷静になつてから、どうしてかと考えてみたら、当たり前でした。レギュラーの半分以上が、全国での試合は初めてだからです。私は、どうして試合前に声をかけてあげることができなかったのかと今でも悔やんでいます。

最後に後悔をしてしまいました。後悔するのは当たり前だと思うのです。笑って終われるチームは全国で一チームだけなのです。それよりもそれまでをこのように過ごしてきたかだと思います。私は、とても充実していました。このように思えるのも、二年間、すばらしい仲間とともにサッカーができたからです。そして、私

ちを支えてくれた指導者の方々や保護者の方々には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

私は、顧問というよりも、追っ掛け」として、サッカー部と接してきました。そこで最初に驚いたことがあります。部員は県北地区出身の生徒だけではないこと、そして、中学時代までは無名だった選手が大部分であることです。つまり、サッカーエリートが集まっているのではなく、ごく普通の選手が東高の練習を通して成長し、全国の強豪と覇を競っていたのです。また、部員はよく勉強をします。遠征の宿舎、移動中のバス、部

員は常に参考書と向き合っています。一人一人が文武両道を実践する、まさに東高生の模範なのです。

第八十三回全国高等学校サッカー選手権大会に参加して

サッカー部 副顧問

今野 充宏(二期生)

萬代選手のスーパーゴールに狂喜し、東高サッカー部の大活躍に胸躍らせてテレビで応援していた二年間。東高への転勤と同時にこのサッカー部に関わることになろうとは夢にも思っていませんでした。

私は、顧問というよりも、追っ掛け」として、サッカー部と接してきました。そこで最初に驚いたことがあります。部員は県北地区出身の生徒だけではないこと、そして、中学時代までは無名だった選手が大部分であることです。つまり、サッカーエリートが集まっているのではなく、ごく普通の選手が東高の練習を通して成長し、全国の強豪と覇を競っていたのです。また、部員はよく勉強をします。遠征の宿舎、移動中のバス、部

員は常に参考書と向き合っています。一人一人が文武両道を実践する、まさに東高生の模範なのです。

私は、齊藤勝監督の卓越した指導力と的確な状況判断に、感嘆せざるを得ない局面に何度も遭遇しました。そして、齊藤監督の期待に見事に応える選手も素晴らしい。名將齊藤監督とごく普通の高校生が成し遂げた、福島県勢初の全国高校選手権三年連続出場という輝かしい歴史は、後輩たちによってしっかりと受け継がれていくことを確信しています。

同窓会の皆さまには多大なるご支援をいただき、誠にありがとうございました。また、寄せられた暖かいメッセージは部員に伝えました。今後とも東高サッカー部を暖かく見守って下さるようよろしく願います。

全国高校サッカー選手権大会の記録

〈県大会〉		
二次リーグ	対安達	4-0
	対郡山北工	4-0
	対尚志	7-0
準々決勝	対郡山	1-0
準決勝	対湯本	1-1
	(PK 4-3)	
決勝	対平工	2-1
〈全国大会〉		
2回戦	対津工業	0-1
	(三重)	

協賛者名

()は卒業期 ()は旧姓

- 手塚健一(5)・加藤和宏(1)・山岸竜大(7)・立花純孝(9)・尾形幸男(1)・久能靖(1)・今野充宏(2)・丹治宏之(3)・高橋克之(4)・渡辺利光(4)・大竹英樹(10)・渡辺剛智(10)・村上光輝(11)・佐藤克典(14)・武田吉正(17)・佐藤俊弘(17)・中田裕規(21)・長澤惇平(21)・丹野友貴(21)・竹内大崇(22)・本田由芽美(22)・大井学(4)・山崎拓也(22)・立谷保(5)・菅野晃弘(5)・照内哲志(10)・小野隆儀(15)・時崎豊(19)・茂木勇人(20)・阿部弘和(21)・大竹薫(22)・杉原一明(1)・山田正明(1)・阿部昌彦(1)・松本竜也(1)・後藤尚生(1)・目黒幹浩(2)・穴戸隆志(2)・佐々木晋一(3)・遠藤博(3)・菅野功(3)・阿部等(4)・菅野幸治(4)・佐藤真一(4)・梅津清(4)・小林昌浩(5)・富樫隆男(5)・大槻智朗(5)・柴崎広司(6)・中村達哉(6)・桃井秀樹(6)・大竹昭仁(7)・今野賢治(7)・松本琢也(7)・東城徳良(8)・堂垣内弘之(9)・梨澤浩顕(9)・安斎誠(10)・菅野貴洋(11)・杉原拓(13)・早川晃夫(13)・富永敦(14)・斎藤善和(14)・佐藤昭(15)・嶋原勇也(15)・横田尚(16)・花井奈緒美(16)・三浦雄介(16)・根本克洋(16)・沖澤舞子(17)・中野真理(17)・柴田学(17)・齋藤聡(18)・齋藤綾華(19)・丹治紗和子(19)・丹野宏美(19)・半澤翔(19)・吉田芳樹(19)・神野藤利彦(20)・野澤亮一郎(20)・岡野朋子(20)・熊本昇太郎(21)・後藤あゆみ(21)・齋藤広彰(21)・浅野美咲(22)・遠藤賢太(22)・大友将吾(22)・佐藤亜佑美(22)・萬代宏樹(22)・齋藤厚徳(22)・落合範文(1)・小野滋之(1)・後藤佳宏(1)・渡辺真弘(1)・秋吉正

- 己(1)・横山卓也(1)・阿部宗弘(1)・佐藤武士(1)・佐藤恒夫(1)・佐戸川政実(1)・大槻武文(1)・後藤康弘(1)・鈴木弘明(1)・荒海亮(1)・尾形丈男(1)・菊池浩二(1)・吾妻吉勝(1)・藤井淳一(1)・菅野徹(2)・津田克也(2)・秋葉直樹(2)・梅津良一(2)・杉内剛(2)・菊地毅彦(2)・酒井隆司(2)・齋藤靖(2)・真柴毅(2)・赤井昭則(2)・穴戸佐寿(2)・津田昌泰(2)・山口昌樹(2)・尾形典良(3)・中村真一朗(3)・齋藤智(3)・鈴木智彦(3)・高槻丈夫(3)・寺島健吾(3)・原田順(3)・齋藤文孝(3)・鈴木昭信(4)・富田道弘(4)・松本重明(4)・渡辺政彦(4)・梅津真樹(4)・江本昌弘(4)・長嶺俊英(4)・星達雄(4)・小林修(4)・高橋秀明(4)・本多弘明(4)・宗像和人(4)・八巻淳(4)・遠藤敦(5)・大槻達也(5)・室井克典(5)・佐藤芳幸(5)・高橋将人(5)・嶋川哲也(5)・遠藤新(5)・清野晃(5)・太斎克彦(5)・伊藤隆(5)・黒津健(5)・幕田明男(5)・山岸淳一(5)・佐藤信行(6)・丹治貴紀(6)・東城善正(6)・樋口達哉(6)・滝本裕彦(6)・山川毅(6)・渡部純朗(6)・大槻勉(7)・齋藤信也(7)・渡部泰史(7)・角田純也(7)・鈴木成人(7)・田村健一郎(7)・黒江昌宏(7)・吉田雄一(7)・森康洋(7)・朝倉紀彰(7)・向井敏(7)・加藤健(7)・木村勉(8)・後藤秀一(8)・高橋英基(8)・鈴木純(8)・日向正仁(8)・阿部文彦(8)・植木博隆(8)・鈴木貴志(8)・高橋和憲(8)・鎌田純一(8)・江川(菅野)洋之(8)・河野浩(8)・国分英行(8)・佐久間潤(8)・東城幸治(8)・櫻井康彦(9)・吉川涉(9)・島貫康弘(9)・佐久間拓也(9)・高橋友一(9)・室井昭一(9)・渡辺高満(9)・菊田剛史(10)・穴戸哲也(10)・星和和(10)・安斎秀俊(10)・高橋哲也(10)・橋本史隆(10)・三浦和幸(10)・石川伸一(10)・武田和之(10)・林谷市(10)・木村勉(11)・

- 佐藤智顕(11)・石田誠亮(11)・長澤政之(11)・藍原節文(11)・菊地忠大(11)・岡山亮(11)・齋藤丞(11)・根本一幸(11)・小國正晃(11)・久保田政行(11)・穴戸淳(11)・佐々木博之(12)・菊地輝臣(12)・下条祐一(12)・塩澤誠(12)・鎌田俊介(12)・水倉敦志(12)・山岸正俊(12)・浪岡真(12)・阿部貴洋(12)・浅野正人(13)・齋藤弘樹(12)・中村慎一(12)・菅田啓一(12)・佐藤宗史(12)・浅野忠大(12)・野地陽史(12)・加藤謙太郎(12)・安田裕(12)・小林博則(12)・鈴木健之(12)・服部和彦(12)・安斎正俊(14)・松野哲郎(14)・伊東英俊(14)・小坂雄樹(14)・齋藤史隆(14)・高橋成典(14)・丹治剛俊(14)・遠藤宏文(14)・菅野洋和(14)・齋藤卓(14)・齋藤友晴(14)・遠藤啓文(14)・庄司真(14)・高橋将典(14)・曳地賢治(14)・松田俊(14)・二階堂茂博(14)・宮本教広(14)・加藤秀吉(15)・高橋純生(15)・高橋伸英(15)・半澤慎也(15)・渡辺秀一(15)・鈴木和博(15)・阿部洋(15)・菅野元樹(15)・佐藤秀明(15)・高津健太郎(15)・石河信幸(15)・旗野誠(15)・阿部裕一(15)・河田裕明(15)・栗城健彦(15)・齋藤訓明(15)・鈴木新吾(15)・安田高博(15)・紺野俊介(15)・佐藤敬之(15)・田中隆幸(15)・佐藤篤志(15)・深澤卓也(15)・加藤勝朗(15)・二文字屋剛(15)・守山直樹(15)・藤本(阿部)奈美子(16)・高橋幸代(16)・高橋久義(16)・逸見智則(16)・武藤沙織(16)・木村貴子(16)・阿部万里子(16)・江村佑佳(16)・三浦敏江(16)・渡部正嗣(16)・伊藤和永(16)・佐藤泰彦(16)・山岡亮介(16)・安藤梢(17)・佐久間雄一(17)・佐藤伸也(17)・嶋原智宏(17)・高橋一也(17)・羽田智(17)・嶋原友則(17)・大友真由美(17)・片平剛(17)・土屋映梨(17)・佐藤まり子(17)・末永剛(17)・松野大悟(17)・山本武徳(17)・大葉隆(17)・山口宏美(17)・上杉光成(17)・高斉健吾(17)・菅野孝政(18)・尾形浩(18)・佐瀬智紀(18)・佐藤大(18)・八島

- 春樹(18)・阿部健一(18)・八巻啓一(18)・黒澤佑司(18)・関川貴久(18)・齋藤章夫(18)・佐藤望美(18)・根本元徳(18)・岩井瞳(18)・小松美香子(18)・加藤和弘(18)・菊田大樹(18)・佐藤真美(18)・嶋原牧人(18)・柴田秀幸(18)・鈴木亮平(18)・佐藤康雄(18)・横野敏(18)・小池麻里子(19)・横江千洋(19)・菅野大佑(19)・武田文子(19)・大友晴記(19)・須田潤一(19)・中込真理(19)・古川貴史(19)・山本裕貴子(19)・赤井理恵(19)・武内翔太郎(19)・富田宏幸(19)・山口卓也(19)・菅野卓(19)・佐藤琢磨(19)・島田芳(19)・高橋歩(19)・渡邊美和子(19)・渡邊純子(19)・大宮裕樹(19)・橋内慎次郎(19)・本多純孝(19)・山木里士(19)・菊地智邦(19)・近野裕介(19)・森知鶴(19)・伊藤雅之(19)・井上曜子(19)・川崎加奈恵(20)・志賀郷士(20)・高橋明弘(20)・若松夏生(20)・渡辺彩(20)・小松有香(20)・樽井樹(20)・武藤勝也(20)・阿部俊之(20)・安部悠(20)・大橋孝行(20)・菅野杏子(20)・八巻綾子(20)・小山真樹(20)・高荒千春(20)・中島文晴(20)・柳原扶美(20)・齋藤賢(20)・齋藤力也(20)・佐藤利嗣(20)・関原健太(20)・長沢俊史(20)・武藤正昭(20)・湯浅なお美(20)・鈴木理恵(20)・池下正敏(20)・石川圭(20)・津田匡也(20)・二瓶真人(20)・尾形厚(20)・佐藤幸恵(20)・野崎大(20)・遠藤健一(20)・遠藤亮介(20)・津田健治(20)・遠藤小百合(21)・佐藤俊輔(21)・高田裕太郎(21)・竹山美穂(21)・橋本学(21)・目黒かれん(21)・渡邊和美(21)・安齋早紀(21)・猪股貴志(21)・遠藤幸子(21)・小野昌晃(21)・齋藤亮一(21)・吉野亨(21)・阿部和博(21)・大月香澄(21)・関根史博(21)・野津智華子(21)・赤井勉(21)・菅野有希(21)・佐藤めぐみ(21)・深谷桂子(21)・横山愛(21)・遠藤あずさ(21)・管麻里子(21)・齋藤元(21)・穴戸奈緒子(21)・清和敬子(21)・関川智久(21)・芳賀雄輔(21)・松本尚子(21)・水戸李

同窓会の把握分のみ掲載とさせていただきます(保護者名で振り込まれた場合は生徒名で報告させていただきます) 掲載した方以外にも、会社名で、職場で、サッカー部のOB会である東蹴会で、そして、サッカー部の保護者会で行われた寄付活動にご協力していただいた同窓生が数多くおられます。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

陸上特集

平成17年度

インターハイ県大会 男女とも総合優勝!!

私と陸上競技

國分 優佳

高校三年という最後のまとめの年に私は三つの目標を立てました。一つはハードルで十四秒三を出すことで、二つ目はリレーでインターハイ上位入賞すること、そして三つ目は高校最後の陸上を楽しむという事です。

リレーでは走るたびに記録がのびて、メンバー一人一人が目標を持ち日々の練習にはげむことができました。少しのバトンパスのミスさえも大きなタイムロスへとつながるので毎日のバトンパスは欠かさずに行いました。今思うとインターハイまでの練習は本当に辛いものが多く、一緒に練習をする仲間なしではやりとげる事が難しかったと思います。その甲斐あってか私達のリレーは福島東女子では史上初となるインターハイ五位入賞を果たすことができました。決勝までの道のりはすごく長く感じられ不安になる事も多かったけど応援してくれる周りの人や一番の支えであるメンバーと想いを一つにできたことがよい結

果につながったのだと思います。

ハードルでは日本Jrで目標としていたタイムを切れたので、すごく自信につながりました。

ハードルを跳ぶ事よりも走力を上げる事を目標に練習したことがハードルにもリレーにも効果が出る結果となりました。

私は大学進学後も大好きな陸上を続けて行きたいと考えています。陸上を思う存分できる環境にしてくれた両親や辛い時に支えてくれた友達、そして一緒に陸上を楽しんだ部員みんなに感謝の気持ちで一杯です。また東高に来たばかりで慣れない環境の中すばらしい指導をしてくださった穂積先生本当にありがとうございました。東高で学んだ事を生かして更に大きな目標に向かって頑張ってください。

新しい伝統(先駆者たち)

陸上競技部 顧問

穂積 祐司(七期生)

五月末に開催された県高校体育大会で東高校陸上競技部は、平成六年の小高工業高校が達成して以来の男女アベック優勝という快挙を成し遂げました。(男子は四年ぶり六回目、女子は初優勝。)東高校女子が県レベルの大会で団体優勝するのは、全ての競技を通じて初めてのことでした。

県大会を振り返ってみると、結果的に男女ともに四×一〇〇mリレーがポイントだったと思います。男子についてはまずまずの仕上がり具合で大会を迎えましたが、女子はエース格の川口の故障という不安材料がありました。大会初日の準決勝がヤマ場と考えていました。女子については、県北予選で二秒以上離れていた橘高校が我々と同じ四八秒中盤で走るというある程度予想された事態もありましたが、川口が何とか走れるというメドがたちましたので、戦えるという気持ちはかなり盛り上がりまし

した。また、一〜三走の八巻・菱沼・國分は逆に川口の負担を軽くするために頑張ろうと団結し、チームとしてのムードが大変良かったのを感じました。一方、男子は予選で四三秒台。出せると考えていた四二秒台が出ませんでした。他校のタイムからも準決勝勝負かとも思いましたが、組(運?)に恵まれたためにもう一度同じメンバーで戦えるだろうと考えました。何とか二位で通過できましたが、準決勝も四三秒台。タイム的には八番目(最下位)での決勝進出となりました。リレーメンバーを集め、決勝は今シーズン度も四×一〇〇mリレーを走っていない関根を起用することを決めました。その後、誰もいなくなつた補助競技場でバトン練習をして、翌日の決勝を迎えました。

男子一〇〇mの予選後、女子の四×一〇〇mリレー決勝でした。一走からトップに立った東高は、後続との差を大きく広げ、そのままゴールを駆け抜けました。タイムは四七秒七九の大会

新記録でした。四七秒台は出せるとメンバー達に言っていました。この大会で出せるとは予想外でした。この結果が全競技の起爆剤になったと思います。その後の男子決勝では、二レーンという悪条件にもかかわらず、四二秒八九で二位。アンカーの関根に頼ることなく、一〜三走の丹治・鈴木・加藤がそれぞれの責任を果たしてくれた結果でした。他校は軒並み準決勝からタイムを伸ばすことができませんでしたが、東高は念願の四二秒台を出すことができました。

この後は、私の予想をはるかに超える勢いでした。川口の女子一〇〇m優勝(大会新)、加藤の一〇秒台での男子一〇〇m優勝(自己新)、國分の女子一〇〇mハードル優勝(予選・準決・決勝 全て大会新)、川口の女子二〇〇m優勝(自己新)での三冠達成…。これらの積み重ねが男女アベック優勝であり、高校生の力とは私の想像以上のものを発揮するのだと改めて感じさせてくれました。

その後の東北大会では、悲喜こもこもがありました。男子八〇〇mの関根(二位)、女子一〇〇mの川口(四位)、女子二〇〇mの川口(二位)・菱沼(六位)、女子走幅跳の松田(一

位)、女子四×一〇〇mリレー(一位)の五種目で全国大会への切符を手にすることが出来ました。特に松田の優勝は、最後の六回目に逆転するという劇的なもので、試合後のうれし涙と表彰後の素晴らしい笑顔は今でも印象に残っています。

高校生最高峰の大会、千葉県インターハイ。大会前のランキング等から判断しても、入賞を狙えるのは、川口の二〇〇mと女子四×一〇〇mリレーかなと漠然と考えていました。しかし、東北大会後にあつた県総合体育大会では、思うようなタイムが出ず、夏休みに入ってから練習でも調子が上がってきませんでした。メンバーにもプレッシャーがあつたようで話し合いをしながらコンディションを整えていき、何とかインターハイを迎えました。女子のリレーは一日一本、しかも全てが午後四時半以降という難しい条件でした。午前中に一度競技場に行き、軽めの練習。その後宿舎に戻って休憩をし、午後に本格的なウォーミングアップというやり方を三日間くり返しました。大会初日の予選は四七秒九八で二位通過翌日はいよいよヤマ場である準決勝でした。準決勝一組のなかで予選タイムは四番目。二着ま

では自動的に決勝進出するなかで、厳しい戦いが予想されました。レインもよくありませんでしたが、各選手が自分の力を存分に発揮し、四七秒六二のチームベストでゴールしました。しかし三着という結果なので、ブラズで決勝進出となる二チームに入るためには、その後の二組と三組の結果を待たなければなりませんでした。全てが終了し結果が発表されると、我がチームはブラズの一番目で拾われ、念願の決勝進出を果たすことが出来ました。決勝に出場できるチームは八チームなので、この時点で入賞が確定し、浮かれてしまつておりましたが、リレー競技には失格というものがあります。気を引き締めて翌日の決勝に臨みました。決勝では悔いの残らない思い出になる走りをしてこいと送り出しました。位置について、用意、バン! スタートです。八巻の抜群の反応、菱沼の加速、國分のコーナーワークと、全てが素晴らしいものでした。アンカーの川口の追い上げにより、六位と同タイムながら五位に入賞しました。タイムは四七秒七三。今大会では三本とも四七秒台を出すことができました。レース後、ゴールに行き、メンバーに声をかけようと

大会結果報告

1 第60回東北高等学校陸上競技大会

平成17年6月17日(金)~20日(月)

青森県総合運動公園陸上競技場

男子	800m	関根 真騎	2位(全国大会出場)	1分55秒63
女子	100m	川口 夢加	4位(全国大会出場)	12秒22
	200m	川口 夢加	2位(全国大会出場)	24秒74
		菱沼 美穂	6位(全国大会出場)	25秒26
	4×100m R		1位(全国大会出場)	47秒91
	走幅跳	松田ゆきえ	1位(全国大会出場)	5m73

2 第21回日本ジュニア陸上競技選手権大会

平成17年6月25日(土)~26日(日)

富山県総合運動公園陸上競技場

男子	800m	関根 真騎	予選敗退	1分54秒55
女子	100mハードル	國分 優佳	決勝6位	14秒32
	100m	川口 夢加	予選敗退	12秒58
	200m	川口 夢加	決勝4位	24秒90

3 平成17年度全国高等学校総合体育大会

平成17年8月2日(火)~6日(土)

千葉県総合スポーツセンター陸上競技場

男子	800m	関根 真騎	予選敗退	1分56秒07
女子	100m	川口 夢加	予選敗退	12秒77
	200m	川口 夢加	準決勝敗退	25秒30
		菱沼 美穂	予選敗退	25秒88
	走幅跳	松田ゆきえ	予選敗退	5m36
	4×100mリレー	八巻優香・菱沼美穂・國分優佳・川口夢加	決勝5位	47秒73

思いましたが、感動で「ありがとう」としか言えませんでした。女子の全国大会入賞は東高史上初のことでしたし、リレーでの入賞となると男女をつうじても初となる快挙でした。翌日の県内紙には、「学校創立以来初となる女子入賞を達成した先駆者」という文字がありました。今回のメンバーは二年生が三人、三年生が一人という若いチームであり、来年の活躍も期待される方もいるかと思いますが、全国大会はそんなに甘い舞台でないことは、本人たちが十分知っていることでしょう。また、リレーに全力を注いだせいか、個人種

目では、思うような成績が残せなかったという反省点もありました。また素晴らしい感動を味わうためには、私自身も指導者として研鑽を積みなければいけないと強く感じました。就任一年目にしてこのような感激を経験させてくれた部員達、支えてくれた保護者の方々、冬場の厳しいトレーニンングを実践された前顧問の中條先生など、全ての方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。最後に、来年五月県大会では優勝旗を二本(男女)返還するというところで、残った一、二年生には大変なプレッシャーがかかる



かると思いますが、また来年も一人ひとりが自分の役割をきちんと果たすことのできるチーム作りに向けて、東高陸上競技部の新しい伝統をつくるべく今冬も頑張りたいと思います。

平成16年度 部活動報告

4位 400M 関根真騎 菊地達郎
ハンマー投 走幅跳 松田ゆきえ

▶その他
〈埼玉国体〉
少年女子B 200M 6位入賞 川口夢加
少年共通女子 棒高跳 8位入賞 渡邊佳夏
〈ジュニアオリンピック〉
全国大会
A 100M 3位入賞 川口夢加

▶駅伝
〈県大会〉
男子11位 高橋路史・泉 達也・三浦大義・
鹿野皓紀・井上定之・水野秀一・斎藤大祐
女子20位 伊藤 彩・鈴木聖子・星 愛美・
玉根美香・高橋真理奈

バスケットボール部
男子
▶県高校総体
〈県北予選〉
予選 対学法福島 62-47
対福島商 69-39
準決勝 対福島 57-59
3決 対安達 59-58 第3位
〈県大会〉
1回戦 対日大東北 68-70

▶県総体
〈県北予選〉
予選 対福島南 78-51
対学法福島 91-43
準決勝 対福島 53-51
決勝 対福島工 49-99 第2位
〈県大会〉
1回戦 対原町 83-37
2回戦 対郡山商 73-49
3回戦 対平工業 44-103

▶選抜大会
〈県北予選〉
1回戦 対聖光学院 106-29
2回戦 対学法福島 101-75
準決勝 対福島 61-68
3決 対安達 62-65
▶県男女総合選手権
1回戦 対東白昌平 60-84

▶新人大会
〈県北予選〉
予選 対二本松工 90-47
対学法福島 63-52
対福島 37-47
対福島工 55-66
対安達 72-67 第3位
〈県大会〉
1回戦 対原町 103-41
2回戦 対平工 65-66

女子
▶県高校総体
予選 対福島西 16-122
対福島南 62-59
決定戦 対福島北 83-67
対福島 57-62
▶県総体
〈県北予選〉
予選 対福島成蹊 45-76
対川俣 85-31
決定戦 対安達 54-43
対福島商 55-57

▶選抜大会
〈県北予選〉
1回戦 対福島商 69-31
2回戦 対福島 48-76
▶県男女総合選手権
1回戦 対bigbird 77-41
2回戦 対福西ク 31-40
▶新人大会
〈県北予選〉
予選 対本宮 67-48
対桜の聖母 52-77
決定戦 対福島北 62-44
対福 45-61
対福島南 89-58 第7位
〈県大会〉
1回戦 対須賀川桐陽 51-61

柔道部
▶県高等学校体育大会
〈県北大会〉
男子団体戦 第5位
女子団体戦 第4位
男子個人戦 尾形泰道 (81kg級) 第2位
白石裕紀 (100kg級) 第3位
女子個人戦 佐久間選手 (58kg級) 第6位
高橋 舞 (52kg級) 第5位
〈県大会〉
男子団体戦 予選リーグ敗退
女子団体戦 1回戦敗退
男子個人戦 尾形泰道 (81kg級) 第2位
〈東北大会〉
男子個人戦 尾形泰道 (81kg級) 二回戦敗退
▶県総合体育大会
〈県北大会〉
白石裕紀 (副将の部) 第3位
齋藤 亮 (先鋒の部) 第5位
齋藤 竜 (") 第5位
高橋 舞 (") 第3位

▶県総体
〈県北大会〉
男子団体 準決勝 対聖光 3-2
決勝 対福島 3-2 優勝
1回戦 対二本松工 1-3
女子団体 1回戦 対喜多方商 3-0
〈県大会〉
男子団体 2回戦 対郡山商 0-3
3回戦 対郡山商 0-3
4回戦 対郡山東 0-3
男子シングルス 狩野祐貴 2回戦敗退
吉川尚志 2回戦敗退
香川泰儀 2回戦敗退
高橋 充 1回戦敗退
羽田春香 1回戦敗退
女子シングルス 香川泰儀 2回戦敗退
高橋 充 2回戦敗退
狩野祐貴 2回戦敗退
吉川尚志 ヘスト32

▶新人戦
〈県北大会〉
男子団体 準決勝 対福島工 3-0
決勝 対聖光 3-0 優勝
1回戦 対二本松工 3-0
2回戦 対安達 0-3
〈県大会〉
男子団体 2回戦 対相馬東 3-0
3回戦 対須賀川 1-3
男子ダブルス 狩野・香川組 3回戦敗退
吉川・高橋組 2回戦敗退
男子シングルス 狩野祐貴 2回戦敗退
高橋 充 2回戦敗退
吉川尚志 ヘスト32
香川泰儀 ヘスト32

陸上競技部

▶高体連
〈県北大会〉
男子 総合優勝 女子 総合2位
〈県大会〉
女子学校対抗 3位
個人
1位 100M 川口夢加
200M 川口夢加
棒高跳 渡邊佳夏
4×100M R 國分・斎藤有・川口・菱沼
走幅跳 松田ゆきえ
2位 走幅跳 保住理沙
4×100M R 丹治・清野・加藤・鈴木
3位 100MH 國分優佳
ハンマー投 熊田裕喜
4位 1500M 三浦大義
4×400M R 國分・斎藤有・渡邊・川口
5位 400MH 益田憲幸
6位 100M 丹治宏樹
〈東北大会〉
4位 100MH 國分優佳
6位 4×100M R 國分・斎藤有・川口・菱沼
走幅跳 保住理沙
〈全国大会〉
100MH 國分優佳
4×100M R 國分・斎藤有・川口・菱沼
走幅跳 保住理沙 以上三種目予選落ち

▶総体・選手権
〈県大会〉
1位 棒高跳 渡邊佳夏
B 200M 川口夢加
4×400M R 國分・斎藤有・川口・菱沼
2位 走幅跳 保住理沙
100M 川口夢加
4×400M R 菱沼・川口・斎藤・猪狩
3位 走幅跳 松田ゆきえ
三段跳 松田ゆきえ
4位 100MH 國分優佳
800M 関根真騎
6位 B 200M 菱沼美穂
〈東北大会〉
3位 棒高跳 渡邊佳夏

▶新人大会
〈県北大会〉
男子 総合優勝 女子 総合優勝
〈県大会〉
男子 総合優勝 女子 総合3位
1位 4×100M R 嶋原・鈴木・加藤・関根
200M 川口夢加
100MH 國分優佳
2位 100M 加藤裕介
400M 関根真騎
800M 関根真騎
4×400M R 嶋原・國分・関根・加藤
ハンマー投 菊地達郎
100M 川口夢加
4×100M R 八巻・菱沼・川口・國分
走幅跳 松田ゆきえ
3位 100MH 加藤裕介
八種競技 菅野峻介
100M 鈴木翔太
800M 國分広樹
5位 4×400M R 八巻・川口・菱沼・國分
〈東北大会〉
2位 800M 関根真騎
100M 川口夢加
3位 200M 川口夢加
4×100M R 八巻・菱沼・川口・國分

運動部

野球部
▶第56回春季東北地区高校野球福島県大会県北予選
2回戦 対保原 7-0
3回戦 対学法福島 14-0
準決勝 対聖光 5-6
▶同県大会
1回戦 対郡山東 5-2
2回戦 対会津 0-8
▶第47回県北地区高校野球選手権大会
2回戦 対福 25-1
対福島商業 2-4
▶第86回全国高校野球選手権福島大会
1回戦 対喜多方 13-6
対岩瀬農 1-2
▶第56回秋季東北地区高校野球福島県大会県北予選
1回戦 対学福島 8-1
2回戦 対梁川 10-1
3回戦 対保原 12-0
準決勝 対福島商 0-7
▶同県大会
1回戦 対大沼 8-1
2回戦 対安達 1-5
▶第15回秋季県北地区高校野球選手権大会
2回戦 対福島工 5-4
3回戦 対福島南 7-3
準決勝 対福島商 3-13

サッカー部

▶高体連
〈県大会〉
1回戦 対郡山商 3-0
2回戦 対尚志 2-1
準決勝 対平工 0-1
▶プリンスリーグ
〈前期〉
1節 対青森山田 0-3
2節 対塩釜FC 1-1
3節 対山形中央 3-0
4節 対仙台育英 2-1
5節 対遠野 0-0
〈後期〉
1節 対塩釜FC 1-2
2節 対遠野 0-2
3節 対山形中央 4-2
4節 対青森山田 0-4
5節 対仙台育英 0-4 最終成績5位

▶天皇杯
2回戦 対白河クラブ 2-0
3回戦 対呉羽化学 0-3
▶全国高校サッカー選手権大会
〈県大会〉
二次リーグ 対安達 4-0
対郡山北工 4-0
対尚志 7-0
準々決勝 対郡山 1-0
準決勝 対湯本 1-1 PK 4-3
決勝 対平工 2-1 三年連続優勝
〈全国大会〉
2回戦 対津工業 (三重) 0-1

▶新人大会
〈地区大会〉
1回戦 对本宮 5-0
2回戦 対福島南 3-2
準決勝 対二本松工 1-1 PK 10-9
決勝 対聖光 0-0 PK 3-1
〈県大会〉
2回戦 対郡山北工 0-0 PK 1-3

水泳部

▶県北高校水泳大会 6月12日~13日 (福島市)
〈男子〉
400Mリレー 7位
200M個人メドレー 5位 萩原亮太
200M自由形 6位 山内貴弘
100M背泳ぎ 3位 山内貴弘
100Mバタフライ 7位 萩原亮太
100M平泳ぎ 6位 黒江基之
▶市民体育祭 (水泳競技)
〈高校生男子〉 8月22日
200Mメドレーリレー 3位
50M自由形 7位 氏家悠太
50M背泳ぎ 4位 山内貴弘
50Mバタフライ 6位 萩原亮太
200Mリレー 3位

卓球部

▶高体連
〈県北大会〉
男子団体 1回戦 対安達東 3-2
2回戦 対川俣 3-0
準決勝 対安達 2-3 第3位
女子団体 1回戦 対福島 3-0
1回戦 対川俣 3-1
準決勝 対聖母 1-3
〈県大会〉
男子団体 2回戦 対原町 2-3
女子団体 2回戦 対平商業 0-3
男子シングルス 吉川尚志 1回戦敗退
齋藤 慧 1回戦敗退
香川泰儀 2回戦敗退
狩野祐貴 1回戦敗退
男子ダブルス 吉川・高橋 2回戦敗退
森口・香川 2回戦敗退
女子シングルス 中村恵理 1回戦敗退
羽田春香 1回戦敗退
女子ダブルス 羽田・中村 1回戦敗退

男子 28中
女子 11中
個人競技 6名参加 予選敗退
渡邊正人 10中
寺島淳司 13中

▶ 新人戦
〈県北地区予選〉
個人競技 17名参加
山上 徹 4中
阿久澤和純 4中
鈴木彩美 3中
齋藤証子 3中
団体競技
男子 6中
女子 3中
〈県大会〉
個人競技 4名参加
鈴木彩美 準決勝進出
▶ 福島県遠の弓道大会
女子団体
鈴木彩美 本田恵利 西崎亮子 第4位

スキニ部
▶ 第51回県北地区高等学校スキー競技会兼
第50回福島県高等学校スキー競技会
福島市 吾妻スキー場
男子大回転
第3位 坪井大介
男子回転
第3位 坪井大介
▶ 第50回福島県高等学校体育大会スキー競技会
田島町 台鞍山スキー場
男子大回転
坪井大介 出場
男子回転
坪井大介 出場
▶ 第57回福島県総合体育大会スキー競技会
猪苗代町 猪苗代スキー場
少年男子大回転競技
坪井大介 出場

テニス部
▶ ジュニアテニス選手権
ダブルス地区大会 4月10・11日
(福島市宮庭球場)

18才以下
男子 第2位 紺野廣知・横山征弘組
第4位 引地 拓・小林直人組
第7位 原田裕希・牧野裕一組
女子 第1位 松本ゆかり・藤井あさみ組
第2位 本田尚子・石川靖子組
第3位 石川彩子・佐々木舞美組
第5位 岩淵未紗・長嶺佳奈組

16才以下
男子 第1位 佐藤龍一・丹治史也組
第4位 鈴木大毅・齋藤千春組
女子 第1位 山田夕貴・野内菜美子組
シングルス地区大会 4月17・18日
(福島市宮庭球場)

18才以下
男子 第7位 引地 拓
女子 第1位 松本ゆかり
第2位 藤井あさみ
第3位 本田尚子
第4位 石川靖子

16才以下
男子 第2位 佐藤龍一
第4位 齋藤千春
女子 第2位 山田夕貴
第3位 野内菜美子
ダブルス県大会 4月24日(福島市宮庭球場)
女子 第3位 松本ゆかり・藤井あさみ組
ベスト8 本田尚子・石川靖子組
シングルス県大会 5月1・2日
(富岡町庭球場ほか)

女子 第5位 藤井あさみ
第6位 松本ゆかり
ベスト16 本田尚子

▶ 高校体育大会
地区大会 5月14~16日(福島市宮庭球場)
男子 団体戦 第3位
シングルス 第5位 引地 拓
第8位 佐藤龍一
ダブルス 第3位 引地 拓・小林直人組
第4位 紺野廣知・横山征弘組
女子 団体戦 優勝
シングルス 第1位 松本ゆかり
第2位 藤井あさみ
第7位 石川靖子
ダブルス 第1位 松本ゆかり・藤井あさみ組
第2位 石川靖子・本田尚子組
第7位 岩淵未紗・長嶺佳奈組
第8位 山田夕貴・野内菜美子組

県大会 6月7~9日(会津若松市宮庭球場)
女子 団体戦 ベスト8
シングルス
ベスト8 藤井あさみ
松本ゆかり
ダブルス
ベスト8 松本ゆかり・藤井あさみ組

▶ 県総合体育大会少年の部
地区大会 6月15・16日(福島市宮庭球場)
男子 部 シングルス
第7位 佐藤龍一
第8位 原田裕希
部 ダブルス
第2位 松野哲士・熊谷諒平組
第3位 菊地達明・坂内健人組
女子 部 シングルス
第1位 松本ゆかり
第2位 藤井あさみ

対福島西 0-3 敗
対橘 0-3 敗

県大会出場
男子ダブルス 山川・大内組
男子シングルス 山川大輔

▶ 県総体
県大会出場
男子ダブルス 山川・大内組
鈴木・石井組
女子ダブルス 今野・藤原組
男子シングルス 石井竜介
女子シングルス 今野礼那

▶ 新人戦 〈県北地区予選〉
学校対抗
男子 対福島西 0-3 勝
対聖光 1-3 敗
対二本松工 1-3 敗
女子 対本宮 1-3 敗
対聖光 1-3 敗
男子シングルス 今野礼那(3位)

県大会出場
男子ダブルス 紺野・山内組
女子ダブルス 今野・藤原組(ベスト16)
女子シングルス 今野礼那

剣道部
▶ 高校総体
〈県北地区予選〉
男子団体予選リーグ
対福島北 5-0
対福島明成 5-0
対安達 3-2
決勝トーナメント
対聖光学院 2-3
3・4位決定戦
対福島 2-3 第4位
男子個人戦 第5位
佐治 樹
女子個人戦 第9位
山田みなみ

〈県大会〉
男子団体 1回戦
対郡山北工業 5-0
男子団体 2回戦
対会津 3-2
男子団体 3回戦
対磐城 2-2 (代表戦負け)
ベスト16
個人戦
佐治 2回戦・山田 1回戦敗退

▶ 県総体
〈県北地区予選〉
男子団体予選リーグ
対福島北 5-0
対川俣 5-0
対安達 2-2 (代表戦勝ち)
決勝トーナメント
対松願福島 0-4
3・4位決定戦
対福島 0-4 第4位

〈県大会〉
男子団体 1回戦
対郡山北工業 5-0
男子団体 2回戦
対湯本 0-5 ベスト16

▶ 新人戦
〈県北予選〉
男子団体予選リーグ
対安達 2-1
対保原 2-1
対本宮 5-0
3・4位決定戦
対福島 1-4 第4位
女子個人戦 第5位
山田みなみ

〈県大会〉
男子団体 1回戦
対安積 3-1
対湯本 0-4
女子個人戦
山田 1回戦敗退

▶ 選抜優勝大会
〈県北地区予選〉
男子団体予選リーグ
対福島明成 5-0
対福島商 1-3
対橘 3-2
3・4位決定戦
対松願福島 1-4 第4位

〈県大会〉
男子団体 1回戦
対帝京安積 3-0
男子団体 2回戦
対湯本 0-4 ベスト16

弓道部
▶ 高体連
〈県北地区予選〉
個人競技 6名参加
齋藤竜也 2中
寺島淳司 3中
渡邊正人 5中 他3名いずれも予選敗退
団体競技
男子 22中 予選敗退
女子 4中 予選敗退

〈県大会〉
個人競技 3名参加
鈴木彩美 準決勝進出
他2名 予選敗退

▶ 県総体
〈県北地区予選〉
団体競技 予選敗退

▶ 新人大会
〈県北大大会〉
男子団体戦 第5位
白石裕紀(100kg級) 第2位
男子個人戦 吉田 誠(66kg級) 第3位

女子個人戦
高橋 舞(52kg級) 第2位

〈県大会〉
男子団体戦 予選リーグ敗退
白石裕紀 一回戦敗退
男子個人戦 吉田 誠 ベスト16
高橋 舞 ベスト8

バレーボール部
男子
▶ 高校総体
〈県北大大会〉
対福島西 2-0
対聖光 2-0
対福島工 0-2 第2位

〈県大会〉
1回戦 対光南 2-0
2回戦 対会津工 1-2

▶ 県総体
〈県北大大会〉
対本宮 2-0
対明成 2-0
対福島商 2-0
対保原 2-1
対聖光 0-2 第2位

〈県大会〉
1回戦 対会津学鳳 2-0
2回戦 対白河 0-2

▶ 新人戦
〈県北大大会〉
対橘 2-0
対福島 2-0
対学法福島 2-0
対福島西 2-0
対聖光 1-2
対福島工 0-2 第3位

〈県大会〉
1回戦 対尚志 2-0
2回戦 対相馬 0-2

女子
▶ 高校総体
〈県北大大会〉(於福島西高校)
対明成 2-0
対保原 0-2
対成蹊 2-0
対福島北 2-0
対川俣 2-0
対聖母 0-2
対福島南 0-2 第10位

▶ 県総体
〈県北大大会〉(於福島成蹊高校)
対福島南 0-2
対安達 2-1
対福島 2-0

▶ 高校新人大会
〈県北大大会〉(於福島南高校・橘高校)
対福島南 1-2
対安達 0-2
対梁川 2-0
対本宮 2-1
対成蹊 1-2 第10位

ソフトボール部
▶ 春季選抜大会
〈県北予選〉 4月18日(日) 於福島商
対福島 8-1(5回コールド) 以上 1位
〈県大会〉 4月24日(土)~25日(日) 於桑折町
第1回戦 対安積黎明 10-2(5回コールド)
準決勝 対小高工業 2-6 以上 3位

▶ インターハイ
〈県北予選〉 5月15日(土) 於福島東
対福島 5-0 以上 1位
〈県大会〉 6月5日(土)~6日(日) 於桑折町
予選リーグ
対安積 11-0(5回コールド)
対郡山北工 1-5 Aブロック第2位
準決勝 対小高工業 1-5 以上 3位

▶ 県総体
〈県北予選〉 6月20日(日) 於福島明成
対福島 9-6 以上 1位
〈県大会〉 7月10日(土)~11日(日) 於石川町
第1回戦 対安積黎明 12-11
準決勝 対小高工業 6-5(延長12回)
決勝 対郡山北工 0-7(5回コールド) 以上 2位

▶ 東北総体 添田英二参加
8月27日(金)~29日(日) 於岩手県
予選リーグ
対山形県 0-2
対秋田県 4-5 予選リーグ敗退

▶ 新人戦
〈県北予選〉 於福島北
対福島高 2-1(延長8回) 以上 1位
〈県大会〉 10月2日(土)~7日(木) 於石川町
予選リーグ
対福島商 2-1
対小高工業 0-4
対安積黎明 3-1 Bブロック第2位
準決勝 対郡山北工 3-10(6回コールド) 以上 3位

バドミントン部
▶ 高校総体
〈県北地区予選会〉
学校対抗
男子 対福島 0-3 敗
女子 対福島北 3-0 勝

バレーボール部(男子)

インターハイ地区大会
対聖光学院 1-2
対福島工業 0-2
対福島西 2-1
対福島 0-2
対学法福島 2-0
第4位

ソフトボール部

インターハイ地区大会 第2位
インターハイ県大会 予選リーグ1勝2敗で敗退

ハンドボール部

インターハイ地区大会
福島東40-11福島
福島東26-15福島工
福島東18-21聖光 以上 準優勝
インターハイ県大会
2回戦 福島東22-6 清陵情報
3回戦 福島東16-12川俣
準決勝 福島東10-23学法石川 以上 3位

卓球部

インターハイ県北地区大会
学校対抗 男子3位 女子7位
インターハイ県大会
学校対抗 男女とも2回戦敗退

陸上競技部

インターハイ地区大会
男子 総合1位、トラック総合1位、フィールド総合2位
女子 総合2位、トラック総合2位、フィールド総合3位
インターハイ県大会
男子 総合1位(4年ぶり6回目)、トラック総合1位
女子 総合1位(初優勝)、トラック総合1位

野球部

第57回春季福島県大会県北予選
1回戦 福島明成 〇10-0
2回戦 福島高校 〇4-1
3回戦 聖光学院 〇1-10
第5代表決定戦 二本松工 〇12-1
第57回春季福島県大会
1回戦 須賀川 〇4-9
全国高校野球選手権福島県大会
1回戦 湯本 3-0 福島東

柔道部

第51回福島県高等学校体育大会
県北地区予選
団体戦 男子第5位
県大会
団体戦 男子予選リーグ2敗

バドミントン部

インターハイ地区大会
学校対抗 男子
1回戦 福島東3-1福島西(勝)
2回戦 福島東1-3安達(負)
敗者復活戦
1回戦 福島東3-2二本松工(勝)
2回戦 福島東3-0本宮(勝)
地区5位で県大会出場
女子
1回戦 福島東3-1福島商(勝)
2回戦 福島東3-1本宮(勝)
準決勝 福島東0-3安達(負)
地区3位で県大会出場

インターハイ県大会

学校対抗 男子
1回戦 福島東3-0県立聾(勝)
2回戦 福島東0-3白河旭(負)
女子
1回戦 福島東2-3湯本(負)

バレーボール部(女子)

インターハイ地区大会
2-0 福島北
0-2 福島商
2-0 本宮
2-0 福島
2-0 東稜
2-1 福島商
0-2 福島南
第8位で県大会出場
インターハイ県大会
1回戦 福島東2(25-16, 25-14) 0 県立石川

テニス部

インターハイ地区大会
男女とも団体戦3位
インターハイ県大会
2回戦敗退

山岳部

インターハイ地区大会
吾妻連峰 男子2パーティー 10名参加
インターハイ県大会
安達太良連峰 男子2パーティー 8名参加

9月24日(金)
合唱コンクール東北大会 銅賞(山形県民会館)

12月10日(金)
福島県音楽アンサンブルコンテスト
・福島東A 銅賞
・福島B 銅賞
・福島C 奨励賞

写真部

6月
▷写真甲子園2004出品 予選敗退
7月
▷高文祭全国大会出場・徳島市
作品『あくび』日下部綾香

12月
▷県北写真展 福島市写真美術館
佳作『わんぱく』紺野百合子

化学部

第53回福島市発明くふう展・鉛筆蓄電池・
「福島市教育委員会教育長受賞」
▷野口英世賞応募
「食品に含まれるビタミンCの効果について」
▷第50回福島県発明展
鉛筆蓄電池「日本弁理士会会長奨励賞受賞」
▷第23回福島県高等学校総合文化祭科学専門部門
第17回生徒理科研究発表会並びに作品展
「食品に含まれるビタミンCの効果について」

美術部

▷第58回福島県総合美術展
6/17(木)~6/27(日) 福島県文化センター
5名応募
齋藤かおり 見城 藍 鈴木美沙子
高橋慶太 長澤 理恵

▷高校生デザインコンプリ2004
10/16(土)~17(日) 郡山市市民ふれあいプラザ
9名応募
青木佳奈子 吉田奈津美 渡邊 翠
安齋ひとみ 見城 藍 佐久間彩未
鈴木美沙子 関 真由美 高橋 慶太
長澤 理恵

入選 長澤 理恵(アート部門)

▷第31回福島県高等学校美術展
10/26(火)~29(金) 喜多方市押切川公園体育館
11名(11点)出品
出品者
青木佳奈子 福田 敦 吉田奈津美
渡邊 翠 安齋ひとみ 見城 藍
佐久間彩未 鈴木美沙子 関 真由美
高橋 慶太 長澤 理恵
合評会10/28(日) 11名参加

▷第72回福島県美術協会展
3名応募
高橋慶太 鈴木美沙子 堺 洋紀

平成17年度 インターハイ速報

剣道部

インターハイ県北予選
男子団体戦 予選リーグ1位通過、準決勝敗退
第3位

インターハイ県大会
男子団体戦 2回戦 福島東3-2郡山商業
3回戦 福島東0-4湯本
ベスト16

弓道部

第51回県高校体育大会弓道競技地区予選会
女子団体4位、男子団体6位で県大会出場権を獲得。
第51回県高校体育大会弓道競技
団体競技:男女とも2回戦に進出。

サッカー部

インターハイ県大会
2回戦敗退 福島東2-2会津工業
4 PK 5

JFAプリンスリーグ東北 2005

1節● 福島東0-3羽黒
2節▲ 福島東2-2遠野 PK負け
3節● 福島東0-3ペガルタ仙台ユース
4節● 福島東0-2FC宮城
5節▲ 福島東1-1福島工 PK勝ち
6節● 福島東0-2三本木農業
7節▲ 福島東0-0秋田商業 PK勝ち
8節● 福島東0-2青森山田
9節● 福島東2-3盛岡商業
10節▲ 福島東1-1東北 PK負け
11節▲ 福島東1-1FC塩釜 PK勝ち
0勝6敗3PK勝ち2PK負け

バスケットボール部

インターハイ地区大会
男子
予選トーナメント
福島東89-58福島北
福島東55-37福島西
決勝トーナメント
準決勝 福島東50-58福島
順位決定戦 福島東46-52安達 3位

女子
予選リーグ
福島東 52-93福島西
福島東129-21川俣
県大会出場トーナメント
福島東82-43本宮
福島東60-71安達
福島東71-41福島北 7位

インターハイ県大会
男子 1回戦 福島東59-89郡山
女子 1回戦 福島東54-75白河旭

部ダブルス
第8位 山田夕貴・野内菜美子組
(県大会) 7月10・11日

(レジーナの森テニスコート)
女子 部シングルス
ベスト8 松本ゆかり
ベスト8 藤井あさみ

▷東北Jrテニス選手権大会
7月16~18日(安比高原テニスコート)
女子 18才以下シングルス
松本ゆかり 本戦出場
藤井あさみ 本戦出場

▷県北ジュニアシングルス 8月2・3日
(福島市宮庭球場)

男子シングルス
第3位 佐藤龍一
第5位 原田裕希

第6位 牧野裕一
第8位 松野哲士

女子シングルス
第5位 山田夕紀

▷高校新人体育大会
地区大会 9月3~6日 (福島市宮庭球場)

男子 団体戦 優勝
シングルス
第3位 佐藤龍一
第6位 牧野裕一

女子
シングルス 第6位 山田夕貴

県大会 10月2~4日(いわき市宮庭球場他)

男子 団体戦 ベスト4
▷インドアテニス選手権

地区大会 12月4・5日 (福島市宮庭球場)

男子
U16シングルス
第3位 熊谷諒平

ダブルス
第6位 牧野裕一・原田裕希組

第7位 阿久津祐介・門守裕樹組

女子
U18シングルス
第8位 山田夕貴

ダブルス
第7位 山田夕貴・野内菜美子組

▷第42回福島県高等学校新人ハンドボール選手権大会

<1回戦>
福島東25-9 清陵情報

<2回戦>
福島東18-15尚志

<3回戦>
福島東17-16郡山北工

<準決勝>
福島東15-14福島工

<決勝>
福島東15-26学法石川

▷第28回東北高等学校ハンドボール選抜大会県代表決定戦

<リーグ戦>
福島東17-14郡山
福島東30-16福島工

福島東23-27学法石川

<第28回東北高等学校ハンドボール選抜大会>

1回戦 福島東18-26盛岡(岩手)

山岳部

▷高体連関係
(県北大会) (吾妻山系)

男子2、女子1P参加

(県大会) (吾妻山)

男子A・B 優秀P
女子 優秀P

<新人県北大会> (吾妻山)

男子1P参加

<新人県大会> (会津駒ヶ岳)

男子1P参加

文化部

吹奏楽部

7月18日(日)
吹奏楽コンクール県北大会

金賞<県北代表> (県文化センター)

8月7日(土)
吹奏楽コンクール県大会

金賞<県代表> (県文化センター)

8月28日(日)
吹奏楽コンクール東北大会

銀賞 (青森市文化会館)

12月19日(日)
アンサンブルコンテスト県北大会

(県文化センター)

・サクセス六重奏 金賞<県北代表>

・クラリネット八重奏 金賞<県北代表>

・サクセス四重奏 金賞<県北代表>

・管八重奏 金賞

1月16日(日)
アンサンブルコンテスト 県大会(平市民会館)

・クラリネット八重奏 銀賞

・サクセス六重奏 銀賞

・サクセス四重奏 銅賞

合唱部

8月27日(金)
合唱コンクール県大会 銀賞 (平市民会館)

部活動を終えて

生徒会

東高生徒会の一年の活動・事業について紹介します。

まず、校内活動・事業としては、以下のような事柄があります。会議としては、月一回の役員会と年一回の生徒会総会の開催。また、夏、冬のスポーツ大会とメイン事業である東桜祭の開催（三年に一回公開文化祭となり来年がその年にあたります）、生徒会の役員を選ぶ選挙は任期が半年なので年二回行なわれます。また、東高入学を目指す中学生に対する学校見学会での案内や、新入生オリエンテーション時における部活動紹介や生徒会活動紹介といったことも行っています。

対外的な活動・事業としては、県規模、県北規模での生徒会の会議、会合への参加（本年は県北生徒会長サミットの議長を務めました）や、学校のまわりのボランティア清掃などを行っています。

今後とも生徒会への御理解、御指導よろしくお願い致します。
(坪井 大介)

女子バレーボール部

引退して…もう四カ月。あんなに長く長く感じていた部活の日々も今ではあつという間に過ぎていった気がする。部活が嫌

でそつ思っていたわけではないが、放課後はバレーをしに体育館に行くことしかなかった毎日、私にまだまだこんな日々が続くんだなああと勘違いをさせていたように思う。

振り返れば、一つ上の先輩から私たちの代は「勝ち」から遠ざかっていた時だったと思う。ずっと「県大会出場」を目標にしてがんばっていたが、セット率などあと一歩で目標を達成できないことが何回も続いた。とうとう先輩たちとは勝ち進むことができなかった。でも、先輩からは技術はもろるんバレーに対する熱意や愛情を学んだ。それが私たちの最後の大会での「県大会出場」にも生きていたと思う。あとは、涙のミーティングをし、体育館中に響き渡る恵治先生が怒る声にめけては立ち上がり、練習に励んでやつとつがんだ県大会だった。しかし、初めてのことが多すぎて、何がなんだかわからないまま終わってしまった。逆に今でも印象的なのは、県大会出場を決めた試合のことだ。みんなですべて攻めて勝った瞬間の喜びはバレーをやってきて一番のことだったし、今でもはつきりと思いつくことができる。

今は部活ではなく勉強の日々だけど、教室にまで聞こえてくる体育館の女バレーの声は私の励みにもなり、女バレーの一員だったことを誇りに思わせてくれる。そして、今までの部活の日々を

忘れずに、最後まで諦めない粘り強い精神でこれからを乗り越えていきたい。また、実績を着々と重ねている頼もしい先輩たちにも、新たな目標の実現に向かってがんばってほしい。
(二瓶由美恵)

男子バスケットボール部

中学生の時、地元の高校生がバスケットをしているのを見たときは好きな格好をして、楽しくやるものだと思っていた。しかし、楽しみ方にも色々あるもので、その高校により、チームカラーは様々で、東高バスケット部は練習で、それはもう辛い思いをして、試合で結果を出して報われる、そんなチームだと思つ。試合で結果を残せないと…

東高バスケット部員は、三年間苦しい練習にも耐え、努力に努力を重ねてきた。だから、部活引退後の勉強への取り組みにも苦もない。はずだし、成績もつなぎ登り…のはずである。

とにかく、東高バスケット部のメンバーとして、三年間努力し、仲間をつくることができたのは、何ものにも代え難い、宝物である。そして、共に戦った仲間をこれから大事にし、ここまですべてでいたいただいた顧問の先生方に感謝し、三年間で得たものを、これから生きていく中で、活かしていきたいと思つ。

(木津 博樹)

スキー部

競技スキーの各種大会、競技会は、いよいよこれからシーズン本番をむかえます。

冬場中心の部活動ですので、夏場は冬のシーズンにむけて、水泳部などに協力をうけながら体力アップ、筋力アップのトレーニングにつとめています。

私が参加するアルペン競技種目は、回転と大回転の二種目で、千メートルをこえるダウンヒルを数十秒で滑りおりてくるなかで、コンマ数秒の差でその順位があらわれる競技です。

また、スキー操作のスキルアップはもちろんなのですが、数十秒を一本だけという競技ですから一瞬の時間に集中し、積極的に旗門にチャレンジしていくという精神力の強化も必要になります。

最後になりますが、残念ながらスキー部は、現在私ひとりのみの在籍ですので、伝統ある部の存続のためにも新入部員の獲得が大きな課題となっています。
(坪井 大介)

陸上競技部

「東高陸上部として」
僕は三年間、東高陸上部でいられたこと、仲間に出会えたことをすごく嬉しく思つ。

いつも高校生活の中心だった陸上部。陸上が好きで集まって来た仲間と過ごす時間は何よりも楽しく充実した時間だった。

先輩、後輩とも仲良く（時にはライバル意識もありで）付き合うことが出来た。中には先輩とタメ口もいたような…。そんな陸上部は今年、東高初の県IHの男女総合優勝、全国IHでの女子リレーの入賞と多くの快挙を成し遂げることが出来た。部員全員の団結力と努力の結果だと思つ。

僕は、今まで先輩方が築いてきた歴史に新たな「歴史」を刻めたことを誇りに思つ。ただこれも東高陸上部の基礎の一部ではない。これからは今までの陸上部より、もっと強く、そしてもっと良い部活動を作り上げてほしい。今の陸上部なら絶対出来る。がんばれっ!!
(鈴木 翔太)

男子テニス部

「部活動を終えて」

部活動を終えた今、今日までの高校生活を振り返ると、最後までテニス部で活動してきたこと、本当に良かったと思つています。確かに部活をしていると勉強が疎かになってしまったり、つらい練習に挫折しそうになった時もありました。しかし、今ではそのつらい日々を乗り越え、最後まで遣り遂げられたことが大きな自信になり、誇りに思えます。僕は途中から部長を任せられました。部長としてはまだまだ未熟なところばかりでしたが、頼りある部員たちの協力があったおかげであまり苦労することな

りませんでした。部長としてはまだまだ未熟なところばかりでしたが、頼りある部員たちの協力があったおかげであまり苦労することな

く役割を果たすことができました。またテニス部での二年と二ヶ月で肉体的だけでなく精神的にも鍛えられ、「ここまで成長することもできました。一緒に頑張ってきた仲間、ご指導して下さいました先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。」

(牧野 裕一)

女子テニス部

女子テニス部の一員として活動した二年間を振り返ると、どれを取っても楽しく充実した思い出ばかりでした。私達の学年は部員がとも少なく、入部したばかりの頃は正直言って不安でした。しかし、そんな不安も先輩方の優しさのおかげですぐに消えてしまいました。部活動を通して、いつも真剣で向上心を忘れることなく自分の目標を持って取り組んでいる先輩から、本当に多くのことを学ぶことができました。また、私がまだお会いしたことのないもつと上の先輩方のお話しを伺ったことがあり、素晴らしい伝統を引き継いでいるこのテニス部で活動できたことの嬉しさを実感しました。信頼できる仲間に出会い、多くを学んだ部活動のすべてが私にとってかけがえのないものです。部活動で学んださまざまなことを、これからの自分の生活に役立てられるように努力していきたいです。

(野内菜美子)

剣道部

東高での三年間の部活動は、自分にとってとても大切な物になったと思う。他の部に比べれば部員の数は少なかったけど、先生や先輩には恵まれていたし、数は少なくても、大切な仲間ができた。大会では、結局上の大会に行くことができなかったけど、それでもいままでやってきたことは無駄にはならないし、なにより仲間と一緒に練習してきたことは、自分にとっていい経験だったと思う。そしてこれからは先輩から受け継がれてきた剣道部の良い伝統と部活内の良い雰囲気、後輩達にずっと受け継いでいって欲しい。

最後に、今まで指導していただいた先生・先輩、そして一緒に練習してきた仲間と後輩に一言、「ありがとう」を言いました。

(佐治 樹)

科学部

この福島東高校での部活動は、僕にとって実に充実したものでした。部員の関係上一年の六月ごろから部長となり、それから約二年間部長として頑張れたと思います。思えば実に様々な事を経験しました。一年生で部長となり、何も分からぬ文化祭の準備に四苦八苦しました。二年では「福島県発明くふう展」において「鉛筆蓄電池」で賞を受賞し、さらに秋には会津へと行き自分たちの研究の成果を発

表する機会もあり、実に充実した活動を行いました。当然、一年から部長となったため不安もありました。文化祭の準備に追われクラスの方をおるそかにしてしまつて迷惑をかけたこともありましたが、こつこつた原稿も何回も書き直しました。でも全てが自分にとっていい経験でした。

人生で一度の高校時代にこんな様々な経験ができたことを貴重な財産として残せることは、本当に満足しています。

柔道部

今の正直な気持ちとしては、この暑さの中でもう練習をしないでいいかと考えると、少しばかり嬉しかったりする。というのも、今は夏休み中で、夏の格技場は毎日気温三十度を越える。まるでサウナの中で練習しているみたいだと練習に来た他校の部員は言っていたことがあるほどだ。

しかしそうも言ってもらえない。先輩方はこの暑さに耐えて練習してきたのだ。柔道に立ち返って言えば、敵は暑さや他人などの外的なものではなく、自分自身である。

部活を引退し、受験生としての自覚と焦りを持って勉強に臨むようになった。二学期になればもつと本格的になるだろう。でも大切な事は、風通しの悪い格技場での練習と冷房病になりそうな教室での勉強は、環境が

変わつても、本質的な部分では変わらない事だと思つた。後輩と、夏休み中には一度練習に来ると約束したが、守れそうもないので、暑い中で必死に練習しているであろう後輩達に差し入れてもして労をねぎらつてあげたい。

野球部

湯本に敗れ、引退してからも一ヶ月がたとうとしている。あの時流した涙を力に変え、みんなそれぞれの道を歩きはじめた。僕たちがあまりいい伝統を築きあげられなかった分、後輩たちには甲子園で勝ち進めるチームを作つてほしいと思つた。おまえたちならやれる!! そう思つている、しかしまだ問題がある。

以前久しぶりに部室前を通つたら、ゴミが散乱していた。誰がどう見ても野球部員が出たゴミだった。残念だった。たまたまその時だけちらかつていたのか? たとえそうだとしてみても後輩たちに自覚してもらいたい、きみたちは自分たちが思つている以上に人から見られているといふことを、そして感じるべきだ。身の回りのことをあたり前にできないやつが強くなくなるはずがないことを。

「他人のことはいい、自分がどうだったかを考える。他人がやらなかったら自分がやれ!」僕が関川先生から教えていただいたことだ。人が嫌がることを進んでできること、それにはもちろ

ん我慢がともなう。でもその我慢が僕たちを強くしてくれるんじゃないだろうか。後輩たちは、よく練習するし、研究熱心、素直で明るく元気がある。僕たち以上に野球の実力もある。だからこそ気をゆるめずにながらばつてほしいと期待してしまつたのだ。でもそんな期待は気にせず、後輩たちにはのびのびとプレーしてもらいたい。もう一度言うが、おまえたちならやれる!! 意識を高く持つて毎日の練習をがんばつてくれ。東高野球部に「新しい伝統」を、遠くから応援している。がんばれ!! (部室はキレイにする!!)

(黒沢 亮)

合唱部

今まさにコンクールの舞台上に立とうとしている。お互いが緊張し励まし合つている。そして本番、ライトがまぶしくあつた。いつ間に時が過ぎ終わった時には涙と笑顔がみんなの顔からわき出てくる。その時にとつた全体写真のみんなの笑顔、一番に輝いていた。

十年目を迎えた東高合唱部、最初は少人数の本当に歌が大好きな先輩方と先生方から始まつた。今では部員四十名を越え、また、東北大会にも出場させていただけの部となつている。本当にここまでこれたのも先輩方や先生方の苦勞があったからだ。これまでたくさんの出来事があった。喜んだり悲しんだり、怒つ

たり、笑ったり、などした。でも一人一人がやっぱり歌が大好きなんだ。良いことも悪いことも結局は良い思い出となる。受け継がれていく後輩には、何事にも一生懸命になり、仲間を大切にし、みんなで心を一つにし、自分達は仲の良い東高合唱部なんだと胸をはって素晴らしい歌を歌い続けて欲しい。

応援委員会

応援委員会として活動してきて早三年、七月に引退を迎えた。この三年間は本当に色々なことがあって日々東奔西走した。

自分が一番嬉しかったことは、無事に次の代へ委員会を存続できたことだ。僕が入った頃はこの委員会は存続の危機にあり、壊滅状態だった。しかし、委員会の仲間や助っ人達と一から立て直し、現在の形にまですることができた。そして、この春入団した有能(?)な一年生に後を託して現役を退いた。

次に自分が最も印象に残っているのは、今年度の桜梅戦だった。前日にまで及ぶ応援歌指導の成果を出すことができたし、自分達が三年間で極めてきた、いわゆる「フリ」を存分に踊ることができた。一年生諸君にも楽しんでもらえたと思う。この委員会の目的の一つでもある、「応援を楽しんでもらおう」ことが達成できた時だった。

三年間を通して、同じ委員会の仲間達、助っ人、先生方、支

えてくれた多くの方々のおかげで、自分は大きく成長することができました。この三年間は自分にとって、たいへん思い出に残るものとなりました。

水泳部

「部活動から学んだこと」

僕は三年間水泳部で活動した。水泳部の部長としての務めを終えた今は充実感でいっぱいだが、途中は多くの悩みや迷いがあった。

大きな問題は、日々の練習体制。中学校では部活顧問の先生の指示に従って練習していたが、高校では練習法を自分たちで編み出さなければならなかった。

手探りの練習は効率が悪く焦りを感じることがあったが、代わりには得たものもあった。それは、練習メニュー一つ一つの意味を自分なりに理解し、練習の効果を考えながら取り組むことが出来るようになったことだ。

二つ目の問題は部活の人数が少なかつたこと。しかし、全員が一丸となり目標を達成できるような互いに励まし合えたため、大会では自分や仲間の「進歩」をしつかり確認できた。

しかし、なんといつても僕自身がこの部活を通して学んだことがある。それは、最後まで粘る大切さだ。大会当日までスランプが続く、納得がいく泳ぎが出来なかつた。そのため、アツプ時間終了ぎりぎりまで一人プールの残り、最後のあがきをしてきた。突然「こっ」を会得し、

一気に絶好調になってレースに臨むことが出来た。その後の競技は最高の結果を出すことが出来た。最後まであきらめずに本当によかつた実感した。

この三年間の水泳を通して「自分」に挑戦すること、そのために自分自身をコントロールすることを学んだ。そして、僕を成長させてくれた水泳を心から好きになつた。

(山内 貴弘)

男子バレーボール部

部活を引退して三ヶ月が過ぎ去ろうとしている。今になつてどうして自分は部活中に救急車まで呼んでしまったこの部活をやり抜けたのかと考えてみた。私の友人が最近、部活はきついでど何か引きつけるよなと言っていた。私はそれを「厳しさ」だと思った。部活は苦しくて当たり前だし、それを乗り越えることで技術や精神力を得る。そしてさらに自分を高めようとした苦しい練習に身を投じる。このようなサイクルを通して体力

だけでなく精神力も伸び、人として力強くなれる。私はその材料となる試練を与えてくれるから、部活動は苦しいと思っても投げ出せなかつたんだという結論に至つた。私は部活の成績は誇るほどのものではないが、部活で積み重ねたものなら誰にも負けないし人生において大きな勇気づけになると思う。今は、共に努力してきた仲間と、熱心

な御指導をして下さつた先生にとても感謝している。

男子バドミントン部

今、部活を引退して思うことは、本当に三年間部活を続けてきてよかつたといふことです。部活に入った当初は、勉強と部活との両立が思っていたよりも難しく、部活を辞めようと思つたこともありましたが、ときには仲間の間で心の衝突があつたり、部活を辞めていく人達が出てきたりと、いろいろな問題が起きたりもしました。でも引退が近づくとつれてそのような問題も少なくなり、仲間との間で絆が生まれ、最後の大会では目標としていた県大会に団体戦で行けることが出来ました。

今部活を引退して勉強中心の生活になつた今、部活をやつてきて本当によかつたと思います。仲間の大切さや精神面や肉体力面を強くさせてもらいました。そして忙しい中私達に御指導して下さいました先生方には本当にお世話になりました。

僕にとって部活は青春でした。(土川 靖央)

女子バスケットボール部

私にとって部活動とは高校生活において欠かせない存在でした。

先輩が引退してから自分が部長になり、今までにない責任感が自分を襲いました。一時は不安になりやめたいと思いましたが、

いろいろな方々に支えられ、最後までやりぬくことができました。

最後の大会では、県大会一回戦で負けてしまいましたが、今まで指導して下さいました先生方、あたたかくもきびしく自分達を引っばつて下さつた先輩方、影で支えてくれた保護者の方々に本当に感謝しています。これからまだまだ部活出来る後輩達には、上を目指しがんばつてほしいと思います。

最後に高校バスケット三年間を共に過ごした、柱子、裕美、美来、奈美、舞、友美は最高の友達です。時にはケンカもありましたがやっぱり最高の仲間達です。

私にとって部活動は青春です。(高橋麻友美)

サッカー部

「選手権に向けて」
現在、福島東高校は三年連続で全国大会に出場している。僕は一昨年は応援者として、去年はメンバーとして戦ってきた。そして今年が最後の大会だ。

今年のチームは四月から公式戦での勝利が一度もない。インターハイ県大会や天皇杯地区予選では一回戦敗退、東北プリンスリーグ大会では一勝もできていなかった。

選手権全国大会ではベスト8が一番良い成績で、国立へはあと一歩届かずにいる。だから、今年こそは全国大会へ出場し、国立で戦い、先輩達が叶えられなかつた目標を叶えたいと思う。

選手権に向けて、福島東という名を誇れるように悔いの残らない大会にしたいと思っ。

山岳部

「山に学んだこと」

部長「さあ！みんな頂上まであと少しだ！がんばろうぜ！」

部員B「部長、オレはもうだめだ！先に行ってくれ！」

部員Z「あきらめるな！寝たら死ぬぞ！国には家族がいるんだろ？」

部員B「オレにはまだ愛する人が故郷にいるんだ！まだ死ねないぜ！！」

などという熱い会話がなされていたわけではありません。むしろ登山中の会話は少ない方です。

この、現代の生活とは違った環境で僕たちはとても大切なことを教えてもらったような気がします。

第一に、忍耐力です。一度山に登ったら、基本的に逃げ場はありません。最後まで自分の力で歩き通さなければ帰れないのです。

第二に、自分自身をよく知ることができたことです。一日中歩くような時は、色々考えることが多々あります。これにより、自分の内面をよく理解し、それが進路決定に大いに役立ちました。もう迷いはありません。

第三は、大切な仲間たちです。正に同じ釜の飯を食べ、多くの困難を乗り越え、感動を共有してきた仲間を得ることができました。世代を越えた付き合いも

生まれました。

山からもらったものは、ここでは書き尽くせないほどたくさんあります。その一つ一つが、辛かったことも含め、宝石のように輝いています。大学、そして社会人になるにつれて、大きな壁にあたることは何度もあると思います。しかし我々山岳部は、山に登るように一歩一歩確実に克服するであろうことを信じずにはいられません。

後輩たちには、この伝統をいつまでも受け継いでもらいたいです。頑張ってください。

(瀬戸 隆友)

JRC部

これまでJRC部として活動してきて、本当にいろいろなことを経験しました。養護学校でのボランティアや募金活動、手話の講習会…。これらの活動を通して、協力し助け合うことの大切さを、反対に、部員一人ひとりで活動してきたことで、自分の行動に責任を持つこと、自ら進んで行動することを学びました。

この部で学んだことは、あとあと私にとって大きな財産になると思います。これから、もし機会があったら、少しでもボランティアに従事し、学んだことを役立てていけたらと思います。

(佐藤 麻衣)

女子バドミントン部

私は、三年間の部活を通して、様々なことを経験しました。特

に、部長として活動してきたことで、多くのことを学びました。部員たちをまとめ引っぱっていくことは難しく、何度も壁にぶつかりましたが、先輩方や仲間達、先生方に助けられ、乗りこえることができました。そして、広い視野で物を見ることを学び、成長できたのも仲間や先生たちのおかげです。このチームで部活ができて本当によかったです。

また、私にとって最後の試合は決して満足できるものではありませんでした。だから、後輩たちには、私のような思いをしないよう、がんばってほしいと思います。

最後に、三年間熱心に指導してくれた顧問の先生方、本当にありがとうございました。

(今野 礼那)

ハンドボール部

「超最高だった部活」

部活を引退して思うことは、とても楽しい部活だったと思います。受験生になり、あの時勉強しとけば良かったと思うことはありますが、勉強を犠牲にしてまでハンドボールに高校生活のほとんどを費やしたことに全く後悔はしていません。今思い起こしてみると色々なことがありました。

強いチームの真似をしてTシャツをズボンの中に入れ、声出しをするようになりました。それに、初めてチームジャージやポロシャツ等を揃えました。そして、先

生が入院しました。他にも副キャプテンと口論をしたり、マネージャーを泣かせたり…。どれもこれも今となっては思い出深いものばかりです。

最後に、多くの良い結果を出せたのは僕一人の力ではありません。保護者、先輩、先生、そして仲間。どうもありがとう。

(鴨田 智早)

卓球部

「三年間」

部活の時間がいつも楽しみでした。「早く授業が終わらないかなあ」とか思ったりして、いざ授業が終わると体育館に直行していました。部内は、とてもいい雰囲気でした。後輩とも先輩とも仲が良い部活でした。仲が良い反面、自分たちの意見をぶつけあいけんかもたびたびありました。最後の大会では、一、一、三年生全員で試合に臨み、敗けてしまいました。でもとてもいい試合内容でした。僕たち三年生は、これからは受験勉強です。

そのための集中力と忍耐力は部活動で十分についていると思います。卒業しても部活によって学んだものは、自分のために役に立つてくれると思います。

(香川 泰儀)

写真部

私の写真部としての三年間は、先輩達や後輩達と過ごした楽しいものでした。写真部に入ったきっかけは、友達のすすめでし

た。入ってみると、意外と全体活動が少ない部でしたが、東北の他校の生徒と一緒に行く遠足などは、とても楽しいものでした。二年生の夏には、全国大会にも出場することができました。

日下部綾香さんの付き添いという形で一緒に徳島へ行きまして。たくさんの方の写真を撮ることができ、自分の感性も高まった気がしました。オリエンテーションなどで仲良くなった地元の友達には、気さくで優しく、とても楽しく過ごせました。

後輩も今年はいくさん増え、廃部にならずに済みました。写真という、何をやっているのか分からない不思議なイメージがありますが、カメラを通して見る世界のきれいなさを感じるととても楽しいものになります。もっと多くの人に、カメラや写真のおもしろさがわかってもらえればいいなあと思います。

美術部

「美術部・友達へ」

私たちが部を引退してから、もうかなりの月日が過ぎました。あの楽しかった日々が一度と戻ってくることは無いのかと思うと、さみしい気持ちでいっぱいになります。

私たちには、運動部のようなさわやかさも、他の文化部のような華やかさもなかったけれど、例えるならタンポポの花のように明るく穏やかであったと思います。今、私たちはあの暖かな南

校舎の一角を旅立っていきこうとしていきます。まっさらな白い綿となり、新しい地を目指していきます。行き着く先はそれぞれ違うけれど、私たちはきつとまた新しい地で穏やかに輝いていけると信じています。

離れても、お互いを思いやれる良い仲間ですっというよね！

(長澤 理恵)

ソフボール部

部活を引退してから三カ月。もう毎日が勉強で部活をしていた頃とは全く違う世界に来たみたいですね。今も部活のことを思い出しますが、苦しかった練習ばかりがよみがえってきます。しかし、あの頃の苦しい練習は今ではいい思い出に感じられます。暑い中ずっと走った日々、周りが見えないくらい夜遅くまでやった日々など……

今考えると自分のやってたソフトボールは地味だったと思うときもあるけれど、ソフトボールを離れた今、「ソフトボールをやっていたよかったですね。」と心から思います。ソフトボールをやっていたおかげで、技術の向上はもちろん、何よりも精神力がついたと思います。これをこれから受験勉強、そして大学受験に生かしていきたいと思えます。ソフトボール本場にありがとっ。

弓道部

「部活動を終えて」
今思い返すと「三年間は、

楽しかったことや辛かったことなど、書き切れないくらいたくさんのお話があります。特に今でもほつきりと覚えていることは部長に選ばれた時のことです。

部長に選ばれた時、とても光栄に思ったのと同時にとても不安に襲われました。自分なんかはこの部活動を仕切っていくことができるのだろうか、何回も悩んだ時もありました。しかし、そんな私の不安はすぐに消えていきました。なぜならそこには仲間という、大きな支えがあったからです。特に私の中の「後輩」の存在はとても大きなものでした。部長ががんばらなきゃいけないのに、いろいろな面で助けてもらいました。最後までついてきてくれたこと、本当に感謝しています。

私はこの部活動から礼儀を大切にすることはもちろんのこと、仲間を大切にすることが「何か」に一生懸命取り組むことの大切さなど、たくさんのお話を学ぶことができました。私の場合は弓道でしたが、みなさんも「何か」に一生懸命取り組んでみるのはいかがでしょうか。

最後に、後輩のみなさんへ。先輩方が「弓道同好会」から必至の思いで築き上げてきた「弓道部」をより発展させ、新しい歴史を築き上げていって下さい。応援しています。

(宗川 隆徳)

吹奏楽部

「福島県立福島東高等学校吹奏楽部」県大会での審査発表に思わず僕は耳を疑った。「今年は東北大会で金賞とるぞ！」と意気込んで臨んだ県大会。結果は厳しいものだった。

今年も東高吹奏楽部にとって激動の時代だった。顧問が恵一先生から星先生へと代わったからだ。そんな中での定期演奏会の成功は、支えてくれた先生や仲間たちのおかげだ。

演奏会も終わり今度はコンクールへ向けての練習開始。いざ練習が始まってみると本当にひどいものだった。そして、あまり改善も見られず迎えた東北大会。シードとはいえ、到底納得のいく演奏とは遠かった。僕らは、ある講師に「(星)先生に言いたいことがあるならはっきり言え！先生は君らに歩み寄ろうとしているのに、君らは近づこうとしていないだろ!!そういう音がする」と痛い所を突かれた。それを期に「どこが悪いのさ?意識の違い?練習方法?」と、とにかく先生と生徒で何度も時間も話し合いをした。去年の東北大会での演奏を聴いたりもした。そんな努力が実ったのが大会約二週間前、僕らの音はまるで別人になったかのように変わった。皆、生き生きしながら練習していて、本当に楽しそうだった。そして迎えた県大会、僕は今までで一番いい演奏をすること

ができた。演奏中が本当に楽しかった。結果に納得はいかなかったが自分たちの演奏には納得がいった。だから、後悔はない。

部活を辞めたい、そう思った時期もあったが辞める勇気がなかった自分がいてよかったと思う。この三年間で僕は大きく成長できた。つらくて、くじけそうになっても支えてくれる仲間や先生がいた。だから頑張れた気がする。一・二年生、これからも先生を信じ、仲間を信じ、納得のいく演奏をしてほしい。三年間みんなどうもありがとっ!!!

(尾形 文哉)

放送委員会

「全国大会に参加して」
今年五月下旬に行われた全国高校放送コンテストの東北大会、ラジオドラマ部門で、最優秀をいただきました。続いて六月下旬に県文化センターで行われた同県大会で、同じく最優秀賞をいただき、全国大会に参加することができました。

七月二十二日から二十四日にわたり、各テレビ部門、ラジオ部門の作品を視聴することができました。会場はオリピックセンターで、まず感じたことは、全国にわたる学校は、放送部の活動をしている人数が多いなということ、あらためて自分たちの部員の少なさを実感しました。一日目の予選で、自分たちの作品も含めて、A会場だけで五十作品ものラジオドラマを聞き、これか

らのドラマ制作に向けて、良い経験の場になりました。

大会二日目、残念ながら我が校の作品は勝ち残りせず、勝ち残り二十作品を会場で聴きました。前日聴けなかったB会場の作品を聴くことができ、また違った視点からテーマを作る作品がありました。

大会三日目は、NHKホールで、全部門の決勝が行われました。なかでも、印象に残ったのはテレビドキュメント部門で、優勝した北海道の番組で、父親と娘の難しい関係を面白く描いており、また技術面でも感心する部分がありました。

今回全国大会に参加して、私たちはまだ未熟だと感じました。私はこれで引退ですが、後輩達が来年も全国大会を目指すことができるような、良い体験ができると思います。

(委員長 大橋 京一)



放送委員会：NHKホールにて

進路

進路指導主事 野中 幹夫

表一から、これまでの福島東高校の歩みがわかるが、平成十七年度入試(二三期生)の国立大学の現役合格者数は過去第二位である。本校生の四年制国立大学希望者が九〇%を超えている状況を考えると、今後さらに合格者を増やす取り組みが必要である。

表二のように、国立大学は地元の福島大学はトップの座を

年度別 現役合格者 延べ人数

卒業年度	1期 S57年	2期 S58年	3期 S59年	4期 S60年	5期 S61年	6期 S62年	7期 S63年	8期 H1年
学級数 卒業生数	6 (281)	6 (265)	6 (262)	6 (283)	8 (365)	8 (361)	8 (372)	8 (376)
国公立大	72	57	78	62	93	70	103	78
私立大	160	117	144	129	199	180	225	259

卒業年度	9期 H2年	10期 H3年	11期 H4年	12期 H5年	13期 H6年	14期 H7年	15期 H8年	16期 H9年
学級数 卒業生数	9 (427)	9 (423)	9 (431)	9 (421)	9 (408)	9 (403)	8 (357)	8 (354)
国公立大	65	88	109	96	109	85	109	113
私立大	188	278	291	333	299	418	413	327

卒業年度	17期 H10年	18期 H11年	19期 H12年	20期 H13年	21期 H14年	22期 H15年	23期 H16年
学級数 卒業生数	9 (351)	9 (354)	9 (362)	9 (350)	9 (358)	9 (359)	8 (314)
国公立大	114	145	150	115	165	153	154
私立大	313	311	346	349	247	248	305

(表1)

大学別合格者数 (平成17・16・15年度入試)

大学名	平成17年	平成16年	平成15年
弘前大	1	1	1
岩手大	7	4	2
東北大	4	4	2
宮城教育大	0	2	2
秋田大	1	1	4
山形大	10	13	19
福島大	42	46	39
茨城大	7	3	7
筑波大	1	4	1
宇都宮大	7	13	13
群馬大	2	2	1
埼玉大	9	8	8
千葉大	2	1	4
東京大	0	0	1
東京外語大	1	2	1
東京学芸大	1	1	2
東京農工大	1	0	0
電気通信大	0	1	1
横浜国立大	2	1	0
新潟大	8	5	12
上越教育大	0	1	0
金沢大	0	2	1
山梨大	0	1	0
静岡大	0	1	0
岩手県立大	2	4	2
宮城大	10	2	4
秋田県立大	4	0	2
会津大	4	7	7
県立医大(看護)	7	5	2
高崎経済大	4	8	7
横浜市立大	2	1	1
都留文科大	1	2	3
その他	14	7	16
計	154	153	165

大学名	平成17年	平成16年	平成15年
東北学院大	51	37	16
東北工業大	9	1	4
東北福祉大	12	13	8
東北薬科大	2	2	2
獨協大	2	5	6
文教大	16	4	2
学習院大	0	3	0
慶応大	1	0	0
工学院大	2	0	2
國學院大	0	2	0
国土館大	2	3	4
駒沢大	0	4	3
芝浦工大	1	0	0
成蹊大	2	2	1
専修大	4	11	12
大東文化大	2	3	3
拓殖大	0	1	6
中央大	4	5	8
東海大	10	11	8
東京電機大	0	2	2
東京農業大	4	0	2
東京理科大	3	1	0
東洋大	5	6	3
日本大	19	14	19
法政大	6	6	3
武蔵大	1	3	3
明治大	5	4	9
明治学院大	0	2	2
立教大	3	2	2
早稲田大	2	1	3
神奈川大	5	7	9
立命館大	0	1	1
その他	132	92	104
計	305	248	247

(表2)

現役大学等進学率…平成17年度(80.3%) 平成16年度(72.4%) 平成15年度(75.1%)

(表2)

旧職員あつち

郡山高等学校 佐藤 恵一

福島東高校同窓生の皆さん、あの日母校を卒業し、その誇りを胸に活躍していると思います。

私は、東高十五期（男子だけの最後の学年）の生徒諸君が三年生の時に赴任し、音楽の教員として九年間お世話になりました。思い出はたくさんありますが、総括すると三つです。

一つ目は、十八期の担任をさせていただいたことです。個性あふれる優秀な先生方と、どうしたらいい学年に育てられるか激論を交わしたのを今でも覚えています。生徒諸君は一人一人悩みな

がらも先生方に最後までついてきてくれました。進学の結果は国公立の現役合格一四五人とそれまでの最高の数になりました。「諦めない」はこの時生徒諸君と同じ学年の先生方から学びました。二つ目は、吹奏楽部です。伝統ある吹奏楽部を引き継ぎ、どうしたら美しい音が出るか生徒達と試行錯誤の毎日でした。他校の先生方からも、「東高はもつと出来る。」と言われました。東北大にも一つ一歩を何度も経験し下を向くこともありませんが、聞き手に伝わる音楽と美しい音

を求め続けました。次第に定期演奏会も文化センターを満員にすることが出来るようになってきました。そして、九年目にやつと東北大に県代表として出場しました。現役生徒は勿論ですが、一緒に美しい音を求めて悩み続けた先輩達が一緒に泣いてくれたことが心から嬉しかったです。素晴らしい生徒達でした。青森でのステージは忘れません。「諦めない」をここで学びました。

三つ目は、合唱部です。赴任した年には合唱部はありませんでした。その年の一年生（十七期）二人が毎日のように「合唱同好会を作りましょう。」と私の所にやってきました。活動場所と音の問題で、職員会議では反対さ

れました。しかし、生徒達は諦めませんでした。相談に行った松木町のカトリック教会の牧師さんが活動場所として礼拝堂を提供してくれたのです。一年生十人で活動が始まりました。二年後、彼らは県代表として東北大会のステージで歌いました。帰りのバスで彼らは「諦めないで良かった。」と泣きながら話しました。それ以降六回東北大会に出場し、定期演奏会も出来るようになってきました。合唱部も素晴らしい生徒達でした。ここでも「諦めない」を生徒から学びました。十八期生と吹奏楽部と合唱部、この三つは私の一生の宝です。両部ともこれからは全国を目指して下さい。最後の二年間、教務部で学校

評価を担当させていただきました。学校全体を様々な立場、角度から評価してもらったものです。その中に「子供を東高へ入学させて良かったと思うか。」と保護者に対する質問があります。平成十七年一月の調査で、九七・一％の保護者が入学させて良かったと答えています。この数値は学校に対する信頼の表れです。先輩方のこれまでの「文武両道」の実践と活躍が地域社会へ浸透し評価され、信頼を勝ち得た数値ではないでしょうか。その皆さんと過ごすことができた九年間を、私はとても幸せに感じています。最後になりますが、「文武両道」を実践し、何事も「諦めない」を誇り高き福島東高校生一人一人

福島東高校にて

吉田 孝夫

私は橋高校との兼務だったので東高校には週三日、一年生の二クラスの授業に出ているだけです。朝の一発目、午後の一発目、そして体育の後、なんか一番きつい時間に、一番難しい？ねむい現代社会。ほぼ毎回宿題がある現代社会。携帯が鳴ったり、黒板が消しなくなったりして怒られた現代社会。一時間が非常に困難だったと思います。でも君達の進路実現には、これくらいくつもの困難にぶつかるといいです。その時は思い出してください。大きな夢を抱いて入学した頃を!!迷った時は原点に戻ってください。夢はなくなることはありません。諦めなければ。

最後に、高校生になって自由が与えられたぶん義務も伴ってきます。自由だけを謳歌するのではなく、自分の義務を果たせる責任の強い人間に成長していただく。がんばれ!!東高生!!

平成17年度 転出者 (*は同窓生)

職名	氏名	転出先	教科
主幹兼事務長	生 亀 哲 男	退職	
教諭	宮 島 徑 安	達 地	歴 史
教諭	邊 美 耶 子	石 川 数	学 術
教諭	中 條 雅 彦	生涯学習領域	保健 体 育
教諭	佐 藤 恵 一	郡 山 音	楽 道
教諭	荻 原 盛 和	保 原 書	道 道
常勤講師	河 田 裕 明*	梁 川 国	語 学
常勤講師	若 林 明 美*	退 職	数 学
常勤講師	佐 藤 勝 彦*	二 本 松 工	理 学
常勤講師	力 丸 裕 樹	川 俣 英	数 学
非常勤講師	蓬 田 英 二	退 職	数 学
兼務講師	吉 田 孝 夫	郡 山 東	地 歴 公 民 科
兼務講師	大 槻 文 彦	保 原 理	理 科
時間講師	岡 崎 政 朝	退 職	理 科
時間講師	佐 藤 香 織	退 職	音 楽
副 主 査	鈴 木 令 子	東北建設事務所	
P T A 事務	金 田 由 利 子	退 職	

平成17年度 転入者 (*は同窓生)

職名	氏名	前勤務先	教科
主幹兼事務長	渡 邊 明 光	南 地	歴 史
教諭	角 田 文 喜	多 方 東	地 歴 公 民 科
教諭	穂 積 祐 司*	生涯学習領域	保健 体 育
教諭	星 弓 彦	磐 城 農 業	音 楽 道
教諭	橋 本 邊 幹 男*	福 島 商 業	書 道
常勤講師	円 谷 智 恵 子*	福 島 商 業	国 語
常勤講師	佐々木 茂 明	新 任	数 学
常勤講師	齋 藤 孝 興	新 任	理 学
常勤講師	渡 辺 久 美 子*	新 任	英 語
常勤講師	伊 澤 壽 昭	新 任	理 科
非常勤講師	星 信 夫	新 任	数 学
時間講師	栗 城 健 彦*	新 任	公 民 科
主 査	石 井 敏 子	教育総務領域	
P T A 事務	稲 垣 順 子	新 任	

恩師を訪ねて

本校舎四F西側、視聴覚準備室には、創立当初から東高に関わられている先生が机を並べています。根本郁生先生と佐藤恵治先生のお二人です。お二人に東高についての様々なお話を聞かせていただきました。



根本郁生先生
(英語)

東高での勤務はどのくらいになりますか？

七期生の入学とともに転動して以来、教諭として十二年間、講師として八年間、合計二十年間の勤務です。

担任は何回もたれたのですか？八期と十二期(学年主任)の担任と、七期、十六期の副担任でした。

担任での思い出を教えてください？

学年主任を務めた十二期で、二年の夏から学習合宿を行い、冬には部活動の生徒を対象とした学習合宿を青少年会館で行う

など、学力向上のために全力でがんばったことですね。また、十六期は女子の一期であり、東高で初めて飛行機を利用した修学旅行を実施したこと(沖縄方面二泊三日)です。

東高での一番の思い出は何ですか？

ずっと野球部の部長を務めたが、平成六年度全国高校野球選手権福島県大会で、郡山、小高工、会津工の強豪校を連破し、準々決勝で第一シードの学法石川を破って、ベスト四に進出したことですね。準決勝で福島商に〇対四で惜敗しましたが、その時の全校応援の感動は忘れられません。男子校で最後の夏だったことも印象的でした。二十年間で東高生の気質はどう変わりましたか？

男子校らしいパンカラ気質が、休み時間には女子の声しか聞かない学校になりました。以前は男子生徒が廊下でプロレスをやったりしていたものだけ、女子が入学して、雰囲気や和らいだね。文化祭では男子生徒がただ裸になるしかなかったからね(笑)。

東高生の長所と短所は？

長所は性格的に素直なところ。これはずっと変わらない。そして、何よりも素晴らしいのは文

武両道の校風のもと、勉強と部活動に一生懸命取り組んでいるところ。何事にも受け身にならず積極的になって、自己の目標に向ってがんばるどん欲さを出してくれればさらに良くなると思う。

最後に、同窓生にメッセージをお願いします。

新聞などを通じて母校の動きに目を向けて欲しい。後輩達はがんばっている。積極的な支援体制を整えて欲しい。



佐藤恵治先生
(英語)

東高での勤務はどのくらいになりますか？

昭和五十六年、創立二年目に赴任して、最初に十二年間勤務しました。その後三春町教育委員会等に離れましたが、五年前に戻ってきました。今年で十七年目になります。定年までいると教員生活の半分をこの東高で過ごすことになりました。

担任は何回もたれたのですか？二期(六クラス)、五期(八

クラス)、九期(九クラス)、そして二十三期(学年主任)の四回です。

(事務局注…これは東高では最多担任数です)

担任での思い出を教えてください？

創設期の二期生の頃は学校を作るのに手探りの状態でした。教員会議も夜八時過ぎまでは当たり前で、夜食をとった後に再開するなんてこともありました。五期生の頃になると学校の方向性が明確になってきて、九期生の頃になると部活動がますます盛んになりましたね。どの学年も英語の学力を上げるのに必死でした。

二十三期は九クラスからクラス減の八クラスになった学年でした。修学旅行で、東大寺や法隆寺を熱心に見学し感動している様子を見て、本校生の素直さを感じ入りました。また、一、二年生の時には部活動に熱心で勉強をあまりしない学年でした。しかし、国公立大学への合格率は過去最高の成績を残してくれたなど、部活動を引退してからの最後の頑張りには素晴らしいかと。

東高は創立当時とどのような点で変わりましたか？

まず、さらに真面目になったね。ただ、女子が入学してきた

おかげで、穏やかな学校になったね。以前はよく窓ガラスが割れたし、トイレのドアが壊れたなんてことがあったけど、今ではないね。男子校時代は男子のパワーが溢れていた。昔は男子生徒であふれかえった廊下は、今は、下級生の女子生徒のためり場になっているかな。女子が元気だね。

女子が入学して東高は良くなりましたか？

良くなったね。勉強もコツコツと努力をする生徒が増えたしね。学力も目に見えて向上している。

部活動の指導で思い出に残っていることはありますか？

男子バレーボール部で新人戦FTV杯などでベスト四まで勝ち上がったことかな。練習試合もかなりこなした。今は女子バレー部の監督をやっています。

最後に同窓生にメッセージをお願いします。

子供が大きくなったら、東高に入学させよう！最近、一期生の子供たちが入学してくるようになった。楽しみに待ってるよ。

平成17年度 教育実習生

氏名	期	実習教科	実習クラス	実習部活動
佐藤 文	20	生物	1-1	合唱
穴戸 立樹	20	生物	1-2	ソフトボール部
羽田 真幸	20	数学	1-3	陸上
根本 拓也	20	数学	1-4	
熊坂 真里	20	音楽	1-5	吹奏楽部
高橋 絵里	20	英語	1-6	
穴戸 美穂	20	国語	1-7	テニス
武田 愛里	20	音楽	1-8	合唱
佐藤 幸恵	20	保健体育	2-1	陸上
渡辺 隆央	20	世界史	2-2	山岳
三浦 利矢子	20	地理	2-3	陸上
齋藤 賢	20	日本史	2-4	剣道
白石田 優行	20	地学	2-5	サッカー
青柳 大祐	20	物理	2-6	サッカー
小野 祐介	20	数学	2-7	吹奏楽部
佐藤 裕一	20	数学	2-8	
高荒 千春	20	保健体育	3-4	バスケットボール
高橋 朋弘	20	保健体育	3-7	陸上
朝倉 宗平	20	物理	3-8	バレーボール

教育実習生

佐藤 文

生徒のみなさん、先生方、三週間大変お世話になりました。実習をして、東高は生徒だけでなく、教生にまでつくづく面倒見のいい学校だなあと感じました。多くの先生にご指導いただき、生徒のみなさんも授業をき

ちゃんと聞いてくれ、最後までやり通すことができました。人に一教えるには十学ばなくてはならない、という言葉通り、授業に臨む前にはかなり勉強しました。そしてその内容を四五分の授業で分かりやすく順序立てて話せるようにまとめる作業がとても大変でしたが、勉強していくうちに、生物がもっと好きになり、その楽しさをみんなに伝えたい!と思うようになりました。

た。それが伝わった時、教員としてのやりがいを感じられるのだろうと思います。また、同じ東高の卒業生どうしである実習生ともお互いに支えあえたことをうれしく思います。いい生徒がいて、いい先生がいて、いい仲間がいて、東高の卒業生でよかった、東高で実習ができてよかった、と心から思います。

さまざまなか職業人に聞く

〜十八名の同窓生が講師として在校生にメッセージ〜

昨年度、新教育課程における新しい科目「総合的な学習」の一環として「さまざまな職業人に聞く」という講座が行われ、四名の同窓生に講師としてご協力いただきました。そのうち二名の講師の感想をお読み下さい。

この講座は、地域の様々な分野で活躍する職業人の話を通じて、生徒の職業に対する関心を高めさせ、自己形成力の涵養を図ることを目的としています。今年度も十月二十五日(火)に実施し、二十五名の講師(同窓生は十八名)をお招きして、在校生に対して職業人としてのメッセージを伝えていただくことになっています。

同窓生の講師は次の通りです。

橋内重康さん(二期)、片桐秀樹さん(一期)、菊田英俊さん(二期)、藤井淳一さん(一期)、大槻幹郎さん(二期)、目黒幹浩さん(二期)、金子與志人さん(三期)、大槻晃太さん(四期)、手塚健一さん(五期)、佐々木光洋さん(六期)、石崎孝行さん(七期)、鈴木勇人さん(九期)、中村京一さん(十期)、角田正樹さん(十一期)、遠藤淳弘さん(十三期)、長谷川洋

職業人

真柴 毅(二期生)

かつて駆け回った学舎を初対面の高校生に案内されて歩く。ホールから一度屋外に出て、中庭を横切り南校舎に入った。一階突き当たりの美術室には、四十二人の生徒が待っている。

東高校一学年の先生から総合学習「さまざまな職業人に聞く」の講師を依頼され、母校を訪れたのは昨年十月のことだ。生徒の職業への関心を高めるために、地域の様々な分野で働く社会人

を招聘し、経歴や職務内容を紹介してもらった特別授業だという。弁護士、消防士、アナウンサー、エンジニア、医師、栄養士、建築士などに混じって、現職の美術館学芸員として私は招かれた(現在は本宮高校教諭)。十二人の講師ごとに設けられた会場に聴講を希望する生徒が事前に割り振られている。私の分科会を選択した生徒が美術室で待つ四十二人だった。

「起立、礼、着席。」

入室と同時に懐かしい号令が響き、司会者による講師の紹介が始まった。集まっている一年生は、二十五期生にあたるらしい。自分が男子校時代の二期生だから二十三歳年下だ。共学になった所為か、年齢差の所為か、後輩といっても「ン」といない。

紹介が終わったところで、資料を配付して本題に入った。学芸員とは、作品の収集・管理、展覧会の企画・運営などに携わる美術館の裏方である。専門職で職場も限られるため、一般には馴染みが薄い。到底高校一年生が志望するような職種ではないのだが、私の分科会が『教育・学芸系』に分類されていたため、教員志望の生徒が集まったのだ。今回講師を依頼されたのも、私が教職経験を持つ学芸員だったからである。そんな内状もあって、質疑応答は学芸員に限定しない幅広い内容になった。

「仕事が楽しい時は？」

「進路実現のための努力は？」

「職業を選ぶきっかけは？」

質問を受けるたびに、どんな時間が遡る。学芸員から教師、教師から大学生、そして東高校生だったあの頃へ。いつの間にか彼らとの距離が縮まり、熱く語っている自分に気づいた。何を話しているのか、よくわからない。それでも「がんばれ」と声を掛けずにはいらなかった。

「職業人からのメッセージ」

とは、今回のサブタイトルである。先輩として後輩に何かを伝えられたらどうか。むしろ彼らに触発されたのは自分の方ではなかったか。未来を見据える真摯なまなざし。それはまるで「二十三年前の自分からのメッセージ」のように思われた。

松野 英行(六期生)

母校を卒業してから十八回目の春を迎えようとしています。早いもので気がつけば卒業した当時の年齢から二倍もの時間が過ぎようとしています。私は現在、福島市飯坂町平野にある福島県果樹試験場に勤務しています。研究員として主にナシの試験研

究に携わっています。

話はちよつとはずれるのですが、

先日、通勤の途中で聞いたラジオの中で、「こたつ布団の売り上げが昔と比べるとかなり減少している」という旨の紹介がありました。具体的な数字までは忘れてしまったのですが、当然のことながらこたつそのものの市場も落ち込んでいらいらしたことだった様に記憶しています。原因はこたつ以外の暖房器具の発達があけられました。空調機器やファンヒーターの普及により、こたつがなくても十分な暖がとれるということらしいです。こたつがなくとも冬を越せる時代になっているのです。

話を戻しますが、私は「こたつ」といえばまず「みかん」、その次に「りんご」をイメージします。皆さんはどうでしょうか。「こたつ」が減れば当然「みかん」や「りんご」の消費量も減っちゃうのかなあと…。さらに一世帯当たりの果物購入量トップ3は

ミカン、バナナ、リンゴだそうです。このためこたつ文化が衰退すると果物購入量にも影響がでてくることは必至です。事実、果物の消費量は右肩下がりが続いています。最近では果物の機能性を前面におしだしながら「毎日くだもの」

「グラム」消費運動を展開しているのですが、

減少傾向に歯止めはかけられないようです。

果物の消費量が伸びない理由には他にもあると思います。食生活や嗜好性の多様化、景気、生活習慣の変化等々が考えられます。

ただ、生食用果実の国内自給率は七一%程度あります。海外からの輸入攻勢が激しい農産物の中ではかなり善戦しているなあとというのが実感です。このため、他の農産物と比べると果物は国内産である確率が高く、食味や安全性も含めて日本人の好みにあった商品が多いといつてよいでしょう。

同窓生や東高に在籍しているみなさん、恩師の方々、果物を食べるという習慣をもし忘れかけている様でしたら、もつ一度家族みんなで思い出してみてくださいませんか？

編集後記

「秋季高校野球東北大会十九年ぶりの優勝！」の快挙で盛り上がった九月。東北大会出場、そして、甲子園出場と夢は広がりました。残念ながら、準々決勝で東日本昌平にまさかの逆転負け。しかし、来年の夏へ向けて十分に期待を抱かせてくれる試合内容でした。

東高の生徒は、毎日を全力で

疾走しています。八時過ぎの朝自習に始まって、毎日が七校時。

部活終了時間の午後七時まで、八〇%以上の生徒が熱心に練習に取り組んでいます。進路の実績はめざましく(国公立合格者一五〇人以上を三年連続で達成)、部活動の実績もサッカー部、陸上競技部に代表される素晴らしいものはかりです(すべての運動部でインターハイ県大会に出場。壮行会ではステージに選手が上がりきれません)。文武両道を掲げる学校はたくさんありますが、一人の生徒が「文」と「武」の両方でこれだけの実績を挙げている学校を私は知りません。

同窓会が、この後輩達を金銭的に、そして人的に支援していくことができれば、本当に素敵なことだと思います。

同窓生の皆さん、ぜひ、会報を通して頑張っている後輩達の様子をご覧下さい。そして、さまざまな場面で応援をよろしくお願ひします。

最後になりますが、会報の発行が、一ヶ月以上遅れてしまいました。これは事務局の怠慢に起因するものです。関係各位にご迷惑をおかけしました。この場をお借りして深謝いたします。

(文責 今野充宏)